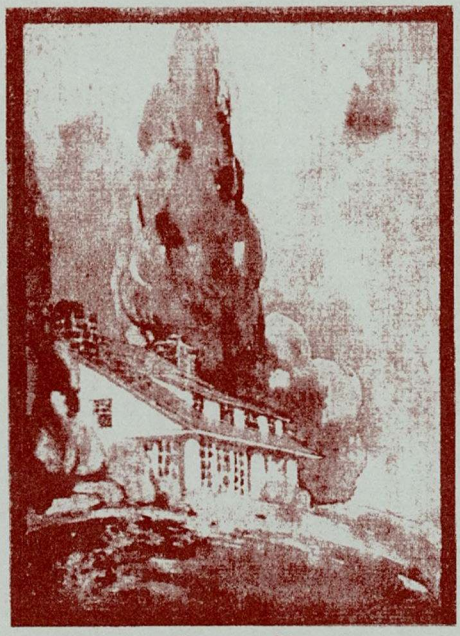
建築ト社會

第五輯　第六号



新　綠

大正十一年六月一日

日本建築協會

日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ入格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラントヲ希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ニ於テ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ贊成シ事業ヲ援助スル者ヲ贊助員トス

贊助員ヲ分テ左ノ四種トス

一　名譽贊助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身贊助員―金參百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別贊助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通贊助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

贊助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各贊助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽贊助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會ノ之ヲ推薦ス

終身贊助員タラントスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別贊助員タラントスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通贊助員タラントスル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有ス

會員ハ會內ニ於ケル其言行ニ付會外ニ於テ責ヲ任ゼザルコトヲ得

名譽贊助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身贊助員、特別贊助員及普通贊助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムベシ

前項ノ規定ハ贊助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ニ脫會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ贊助員ニ之ヲ準用ス

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失セルル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免ガルルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ贊助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名（理事長タル理事ヲ含ム）

四　理事　十名（理事長タル理事ヲ含ム）

會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會務ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選舉ス但會頭、副會頭ハ名譽贊助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

理事長ハ理事ノ互選ス

役員ノ任期ハ二年トス　但シ理事長ニ付テハ一年トス

理事ノ改選ハ毎年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主記　一名

二　主計　一名

三　編輯　三名

四　編輯補　若干名

五　書記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長、理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給ト爲スコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應シ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員會ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員會ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選ト雖モ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ嘱託委員ト爲スコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ毎月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ガ必要ト認ムルトキハ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ豫告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラズ

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究

一　調査研究報告ノ發表

二　建築ニ關スル重要事項ノ議決

三　會誌ノ發刊

四　建築ニ關スル圖書ノ刊行

五　建築ニ關スル講演會ノ開催

六　建築ニ關スル展覽會ノ公開

七　建築ニ關スル視察

八　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

九　理想的建築ニ關スル研究會

十　其他建築ニ關スル有益ナル事項

十一　第二十條　會員ハ會費年額金拾八圓ヲ本會ニ醵出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金貳百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ル

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スベシ

特別贊助員ハ特別贊助員年額金九圓ヲ、普通贊助員ハ普通贊助員年額金六圓本會ニ前納スベシ

但六期以內ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金贊助員其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

第二十二條　本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

本會ノ財產債權債務及每月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

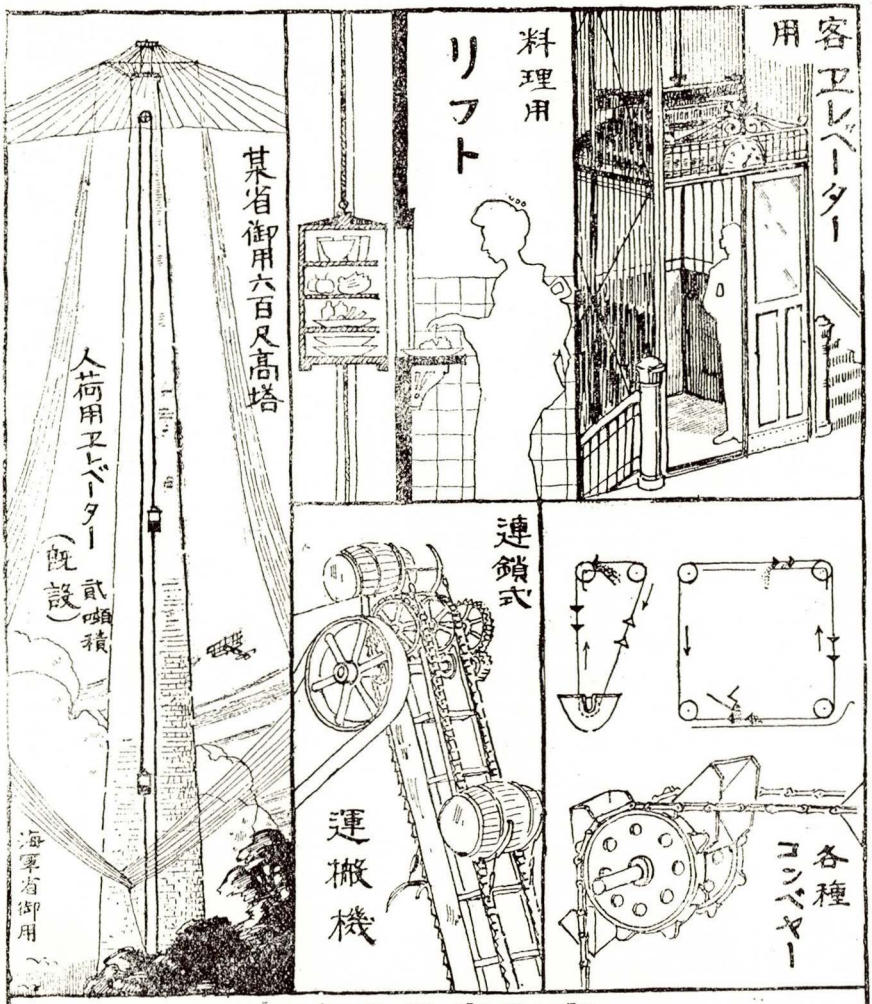
本會ノ財產債權債務及每年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

威權の日本エレベーター

（專賣特許六件）



大阪東區玉造

日本エレベータ製造株式會社

電話・南三八〇五番・南五四三五番

建築と社會　第五輯第六號目次

□□繪……（三色版）
（○新綠……（寫眞版）
○大阪商船株式會社神戸支店……）

〔卷頭〕

○清鮮なる氣宇と建築家……

〔論說〕

○防火地區に關して……大須賀巖……二
○伯林郊外の發達に關する研究（畢）……法學博士　關一……五
○工場工事管理に就いて（上）……工學士　本田登……一三
○住宅難と秕政……代議士　紫安新九郎……一九

〔研究〕

○建築物の内外に於ける日射關係並に「サナトリウム」建築上の應用に就いて（一）……京都大學醫學部　醫學士　富永孟……二四

〔都　市〕
○亞米利加の都市計畫（六）……Z Y 生譯……三四
〔住　宅〕
○洛東「山科」のアッパートメントハウス……なにがし……四三
〔資　料〕
○住宅と保健の關係……三太郎……五一
——「大阪市に於ける細民階級住宅の現狀と保健狀態」の續——
〔漫　錄〕
○東京建築だより（一）……文學士　黒田鵬心……五八
○大阪の外廓を歩して（畢）……齋藤惠太郎……六一
○個性に歸した生活……M記者……六四
——木村永子夫人の持論と博士のフロックコート外套
○時代に伴ひたい私の生活方針……竹原みどり……六九
○大阪建築だより……翠煙生……七三
□會　報

繩田式 エレベーター

型錄進呈

技術優秀!!
價格低廉!!

多年研究ト經驗トヲ重ネタル結果全ク外國品ヲ凌駕スル完全ナル繩田式裝置ヲ完成シ多大ノ好評ヲ得ツヽアリ能的作業ニ依リ特ニ低廉ニ供給ス

繩田式エレベーター各種
繩田式コンベヤー各種
石川式安全索道
各種捲揚機械
其他輸送機械專門
設計製作工事請負

大阪市西區市岡町八九番地

日本コンベヤー製作所

所主 繩田竹一

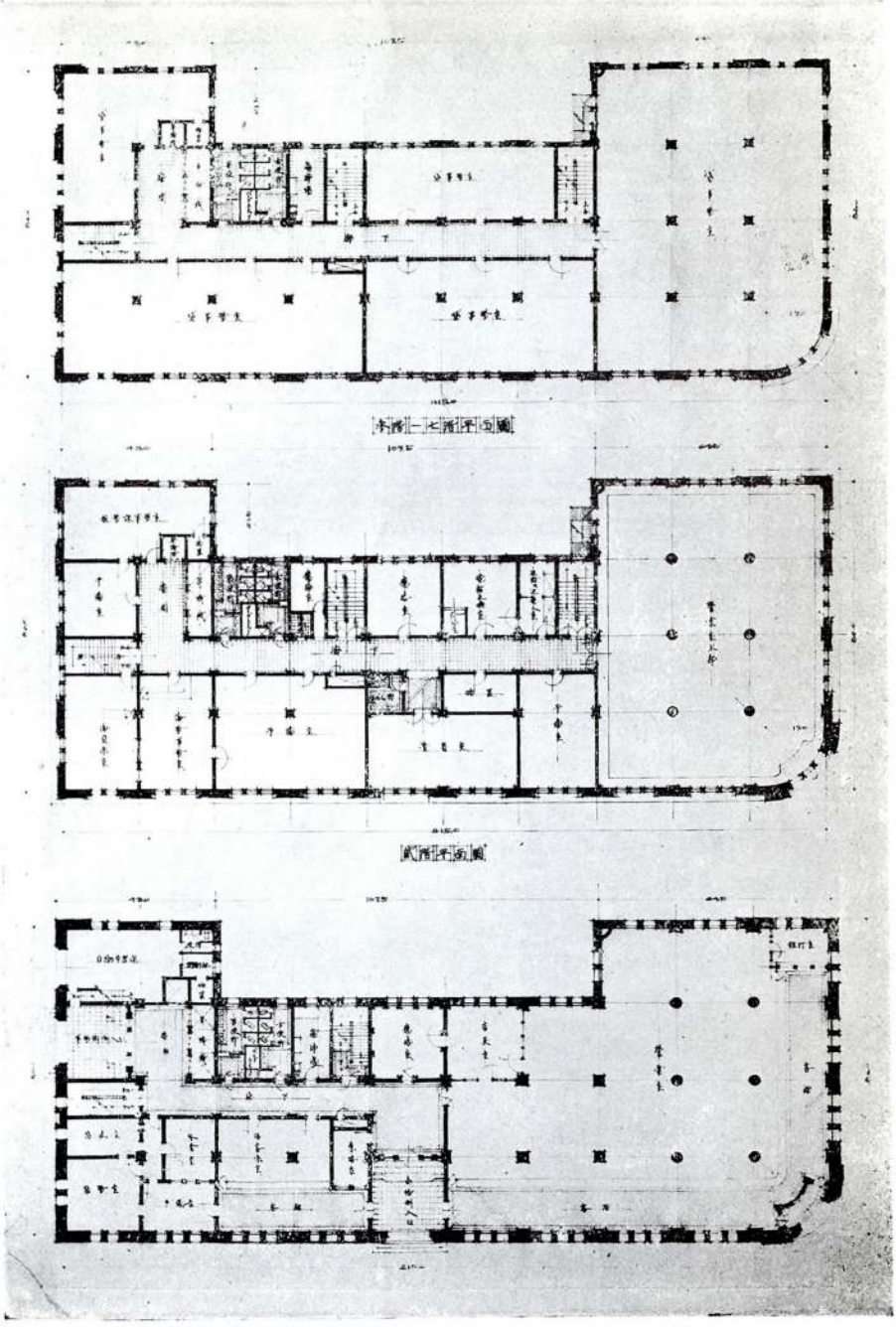
電話西九三六番

最近繩田式採用先

株式會社多木製肥所　森永製菓株式會社　父井原金山鑛業所
日本航空運動株式會社　甲陽土地株式會社　信貴生駒電氣鐵道株式會社



大阪商船株式會社神戸支店



同上平面圖

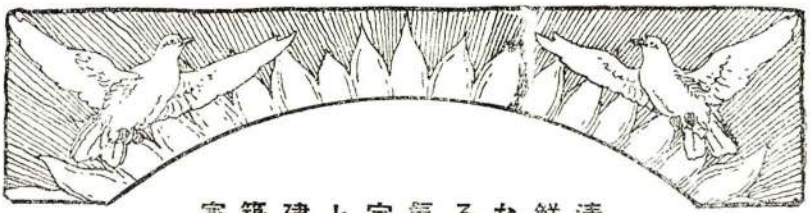
住宅改造博覽會開催に就いて

我日本建築協會ハ方今ノ世情ニ鑑ミ本年秋季ヲ期シ住宅改造博覽會ヲ開催シテ聊カ社會ニ貢献スル所アラムトス。

抑モ我國住宅改善施設ニ就テハ二重生活ノ苦痛ヲ脫却セム爲近年一般社會ノ輿論漸ク勃興シ來リ生活改善ノ運動ト共ニ眞摯ナル研究ニ入リツツアリ從ツテ住宅改善ノ問題ハ最早論議ノ時期ニ非ズシテ實行實現ノ時代ナルコト既ニ識者ノ唱導スル處タリ本協會ハ茲ニ觀ル處アリ前後三回ノ懸賞募集ヲ斷行シ其ノ優秀案ヲ參考トシテ改良住宅ノ成案ヲ實現シ一般公衆ノ觀覽ニ供ヘ且我建築界ノ現狀ヲ紹介シ以テ將來ノ向上促進ニ寄與セントスルノ目的ニ依リ茲ニ住宅改造博覽會ノ擧ヲ企圖シ着々其ノ準備ニ從事シツツアリ翼クハ本會會員賛助員各位ノ熱心ナル御後援ト懇切ナル御賛助ニ依リ本會ノ斯ノ目的ヲシテ着實有意義ナル事業タラシメムコトヲ熱望ス

大正十一年六月

日本建築協會



清鮮なる氣宇と建築家

巷を崩す音幽なり夏木立

嵐山

せゝらぎの涓涓たる音、風ッと降す青嵐、此處許りは、勞働問題と、住宅問題と、乃至は、つむじ曲りな諸問題を容れるには餘りに世界の幽淨さを感ずる。―建築家は、人間生活に於ける重要部分の建設者なるが故に、恒に斯る清潤な而も鮮淨な氣宇に生きて行くべきではあるまいか。



防火地區に關して

大須賀巖

一

防火地區の設定に付ては曩きに建築學會より內閣總理大臣陸軍大臣內務大臣へ意見書が提出され又先般の都市計畫中央委員會からも之が設定を取急がれんことを建議されて居ます而して新聞紙の傳ふるところは都市計畫大阪地方委員會にても其調査要項を明示し　已に地區としての成案は其筋に提出されたと報しられて居ります本會の中西理事が之が主査であつたといふこと本會員の多數の人々が之に從事して居つたといふことは此問題に關して本會員の誰もが興味を以て對ふべきは言ふを俟たぬ事と信します

二

法律家の說くところに從へば法律としての古いものは刑罰法であるとの事であります私の狹き見聞では建築に關する古の法制は防火設備と奢侈的建築の制限であつたと思ひます立派な建築の制限は今日に

ては權利の濫用として社會より成金者流に對して「差控へろ!!」と命ぜられて居りますが昔の法律は「借上の沙汰」として衆愚の上に自分等許りが「位うち」とか云ふ形式を以て威張らうといふ權力者の爲めに――御都合の爲に制定されて居りました勿論質素儉約によつて士民の窮乏を防ぐといふ表面上の申譯的理由はあつたのでありますが防火設備の方も亦彼等が戰場にて最も恐るべき武器として敵に之が利用されたる時、自分の方で之を利用せし時の經驗によつて知つて居りましたので城下の火元に注意したといふ理由もありますが大体は「諸人難義」と相成らぬ樣にとの考から見る方が至當でありましよう。

三

火災が大火と爲つて人も器具も甲斐のないものと爲つてしまつた時鎭火の役目を務めるのは不燃燒物と空地でありまする此間の函館の大火の如きは前者の例を示し大阪第一等の大火――享保九年の所謂妙知燒は後者の例を示して居ります妙知燒は堀江から始まつて兩橫堀川に沿ふて二手に岐れ市中を大蛇の舌の如くに甜め廻はし更らに風の變つた爲め東へ廻はつてトウ〳〵市内の八分通りを甜め盡した程の大火でありますが其停まつたのはお城の空地でありますソコで此大火後に火除地として「本堺町、京橋一丁、相生東町の南側西半部、及相生西町の南側全部」（大阪市史第一、五九九）を公收しました。

上州高崎城下の事を書いた古記錄で見まするに矢張り享保十二年に同地に火災があつた後城内に火除の爲に空地を存したのが夫より後廣小路として大手前の廣場をとる事に爲つたと書いてあります大手前の廣場は城門の威嚴を增すといふ意味以外に泰平の世の政治として火除け地であつたと見えます。

四

私の幼い時の記臆に私の祖父の季弟に當る東京の大叔父から私共の屋敷内の樫の木の小さいのを送つ

て呉れと申して來ましたので母は「オヂさんは樫の木を火除げの護符と思つて入らつしやる」と笑ひながら樫の木の小さいのを數本送つたことを覺えて居ります而して私が其後上京した時其大叔父の家の裏の土藏と隣家との境に其樹が植てあるのを見ました。

大叔父といふ人は私の祖父とは大變年の違ふ兄弟で江戸時代に公事師の株を買つて貰つて此話の頃には其儘日本橋馬喰町に大きな旅館を營むで居つたのでありますから隣家との間に樫の木の五六本植たところで火防には効果が無いので私の母は笑つたのでありますが大叔父としては生家の土藏の周圍に樫の木の防火壁があることが如何にも安全に其幼な時の思ひ出と合してワザ〳〵私の家から取寄せたのでありましよう。

樹木が市街地にて一種の防火作用を爲すことは私の申す迄もない事でありますが市街の美觀と防火との兩用を兼備して居る點は樹木の少い大阪の都市計畫として防火地區の設定と連想すべきでありましよう

五

火災保險會社の支店長さんより防火地區の設定に付て同業者の方々の深い御經驗と高い學識を尊重して都市計畫大阪地方委員會は諮問でもせよとの御勸告を拜見して至極御尤もの事と私共は思ふて居りますが委員會はキツト之等の方々の御意見を參考することゝ思ひますが其形式は必ずしも諮問とか何とか固苦しい方法を以てせぬだらうと思ひます而して委員會の立案の方針と保險業者の方々の火災に對する防備の御理想とは必ずしも一致するものでなからうと私は信じて居ります勿論如何に保險會社は營業を主とするからとて理想としては火災の絶滅を期し不幸發生の場合には之が損害の可成的小ならんことを欲する希圖は一致するものでありますが兩者の間に異つた立場があることは何人も承認せらるゝことゝ存じます。

伯林郊外の發達に關する研究（中）

法學博士　關　一

第二章　一八八七年以降の投機時代

第一節　建築法の影響

一八八七年一月十五日伯林は新しい建築令を發布した。此新法令は五階の兵營式貸長屋の制度を全く其儘にして、從來のものを幾分改正したに過ぎない、然るにポツダム州政府は此新令を最も理想的のものとして同年六月二十四日急遽伯林市の郊外地域全部に新令を適用することとした、茲に於て大規模の貸長屋制度が公然一般に認許されることになつて、西南部の最も美しい別莊地 VILL ENVORORT に於ても、五階建の貸長屋を建てゝ差支無いことになつた。此回復することの出來ない變革の結果は忽ち伯林郊外全體に現はれて來て、一般景氣の回復と共に、伯林郊外に再び非常な大規模の土地投機を惹起した、殊に伯林の西及西南部の郊外は當時開通したワンゼー鐵道の爲に投機者の活動の舞臺となり、土地投機は建築の勃興を促がし、伯林の郊外の外觀は、新式の貸長屋の爲めに一變した。即ち從來の空地に兩翼及背面の建物を持つた五階建の大きな貸長屋が忽然と現れて、從來の田舍路に面した小屋の間に、無趣味の防火壁が屹立することになり、投機業者は從來の別莊又は農家を取壞して、其跡に新しい大建築をし、美しい花園が消滅し之に代はるに、大都會に特有な狹隘なる裏庭を拵へた、隨つて衞生上から見ても亦美觀上から見ても郊外の發達は非常に惡化して仕舞つた、又民法上の土地臺帳に於ける地目の變換に依つて此惡化を豫防するが如きことは全く無效であつた。

此變遷は伯林に近い郊外に於て最も悪かつたのである、即シャルロッテンブルヒ、シエーネベルヒ、リックスドルフ等は伯林市内と殆ど何等の區別の出來ない現在の如き外觀を呈することになつて土地價格も伯林市内と殆ど同じ程度まで非常な勢を以て騰貴した。唯々伯林の北部に於ては建築令の影響が左程でなくて、其後になつても、此悪い影響を除くことも餘り困難でなかつた、此地方は交通機關も不十分であつて、伯林市内にも此方面には相當の空地が有つたから投機業者は北部には眼を着けなかつたのである。反之西南部に於ては伯林から餘程離れた郊外まで兵營式の貸長屋を建てゝ、土地の値段は是と共に非常に騰貴した、其變化は非常に迅速であつて全部の農地に此建築令を改正しやうと思つても是が爲めに多數の所有者に損害を蒙らしむる恐れがある爲め到底實行することが出來ない狀況に迄立至つた

此警察令の悪影響に就ては其後改正を試みた當局者も有つた、例へば州參事會員のステューベンラウフ LANORAT Stubenrauch の如き此改正を試みて終に目的を達しなかつた、併し長い間の爭論の結果伯林建築協會の協力の下に、一八九二年十二月三日の新建築令が、翌年一月一日から施行せられ、幾分の改良を見ることが出來た、此法令は今日に於ても尚ほ有効のものであつて、其大要は次の如くである

一、伯林の高層建築令 BERLINER HOCHBAU ORDNUNG 此法令の施行區域は南部及東部に於ては伯林の環狀鐵道の中にある郊外地に限られて居る、西部と西北部に於てはシャルロッテンブルヒを含んで居る、又其他の部分に於ては伯林市の區域に限つて其面積は約四千町歩である、此面を許すことは一八九二年に方ても尚ほ土地の値段から見れば已むを得ない事とは云へなかつたのである、當時尚一八八七年の法令の失敗を回復することは絶望ではなかつた。

二、郊外地建築令 BAUORDNUNG FÜR DIE VORORTE 此法令は伯林及シャルロッテンブルヒの區域及環狀鐵道の中に含まれて居る郊外地以外の地域に行はれるものである、此郊外地建築令は地域を二つに分けて一は普通の建築地域 BEZIRK GEWÖHNLICHER BEBAUUNG 他は田舍家地域、

LANDHAUSBAUBEZIRK とし、第一の地域には住宅の外工場、商店、倉庫を建築することを許し第二の地域には主に住居の建築を許して幾分か商店並に小さな工場を許してゐる。

普通の建築地域に於ては一軒建又は連續した建物を任意に建築することを認め、次の三種類の建物を區別して居る。

イ、高層建築第一類。HOCHBAUTEN I KLASSE 此建築は完全なる上水及下水を備へて造られた街路に面する場合にのみ許されるものであつて、敷地の五割迄の建築を許し角の地面に於ては六割迄、建物の最高制限は十八米突、建物の間隔は六米突、住居に供する居室は四階迄である、一方に空地がある時には屋階の半分までそこから兩側に空地がある場合には其全部を居室に當てることが出來る。

ロ、高層建築二類。HOCHBAUTEN II KLASSE 此建築はなほ下水等の完成しない街路にも許されるのであつて、建築は敷地の四割、角地に於て五割、高さ十五米突、三階までを住居とすることを許されるのである。

ハ、小家屋。KLEINBAUTEN 此種類は何れの場所にも建てることが出來て敷地の七割までを建築することが出來る、高さは九米突、建物の間隔が三米突、地階及屋階の外に二階迄を認められて居る、併し地階は居室に充てることは出來ない、屋階は四分一だけを居室に充てることが出來る、田舍家地域に關する規定は次の如くである、此地域に於ては普通に敷地の三割迄の建築を許し、角地に於ては四割までとす、高さに就ては別段の制限が無い、唯々住居の爲めには二階迄を許してゐる、又此地域に對しては十四米突の間隔を有する一軒建の家屋を認めて居る、併し間口四十米突までは二つの建物を接續して建てることが出來る、且つ二つの街路に面する角の家は之に隣接して他の建物を建てることを認め、其角の家と次の家の間口が合計四十米突を認めて居る、又總ての建物に對して居室の高さは二米半を下ることが出來ない、地階を住居に當てる時には土地の表面から五十糎より低い床を拵へることが出來な

い、唯々別莊建の家に於ては一層低い床を拵へることを認めて居る。

郊外地の建築令に於ては防火の取締以外には、たゞ衛生上の取締を目的として居つた、此趣旨は當時の此法令の說明に依つて見ても明白である、隨つて經濟上の理由から兵營式貸長屋の防止を目的としては居らなかつた、寧ろ當時の通說に從つて所得の少ない階級に對しては大きな貸長屋を建てゝ安い家屋を供給し得ると考へて居つたから、大規模の貸長屋の衛生上の改善を圖る爲めに通風、採光のみに注意したに過ぎなかつた。即ち高層建築第一類は伯林の法令を多少緩和したものであつて之に依つて建つた街路の外觀は、伯林市内と殆ど違はなかつた。又此建築令が大きな貸長屋制度を奬勵したことは下水及上水の供給の無い街路に對しても十五米突の高さ三階又は四階建の家を認めたと云ふ事實で明白である故に此法令は衛生警察上の見地から當然必要とすべき取締を幾分犧牲として寧ろ安い家屋を供給しやうと云ふ間違つた考へに基いて居ると言つて宜い。

此當時まで伯林郊外の建築の狀態は小家屋であつて、此建築の樣式が下水の完全に設けられて居らない街路に對しては衛生上から見て唯々一つの正當なるものであつた、又土地の値段も小家屋を建てる爲めに適當のものであつた、然るに新建築令は小家屋に對しては餘り重を置かなかつた、斯の如く郊外の建築は新法の下に兵營式貸長屋の制度を奬勵することになり、高層建築第一類の地域に於て小家屋を建てることは殆ど出來なかつた、其理由は主として土地の値段が高過ぎて小家屋には不適當であつた爲めである、又高層建築第二類の地域に於ても、土地の値段の高い爲めに段々大きな貸長屋が現はれて來て土地投機者は土地の値段を騰貴せしむる爲めに高き家賃收入を得ることの出來る貸長屋を建築することを努めた、且つ是等の投機者は法令に於て田舍家地域と定められた場所にも大きな貸長屋を建てる方法を發見した、又來建築令は此地域に對し家の高さなどに就て餘り制限をしてない、其理由は此地域に於ては各人が勝手にそれ〳〵工風をして新しい樣式の家を建てると云ふことを望んで居つたからである、

此法令の制定者は田舎家地域に別荘建が出來ると云ふ考を持つて居つた、故に地階又は屋階を住居又は寢室の目的に使用することを許した、然るに投機者は法令の不備を利用して二階建のみを許した場所に屋階又は地階を拵えて之をも住居の用に供する新しい方法を考へ出して、結局四階建の家が出來ると云ふことになつて來た、又此種の建物は連續して間口四十米突までを許して居つたので可成大きな貸長屋が出來ることになつて來た。

此狀態に對して行政廳はポツダム州知事、工部大臣と協力して、此新しい貸長屋を建築令の精神に違反するものとして、一家族の住つて居る場合には地階又は屋階を居室として使用することを許すが地階又屋階を獨立した住居として用ゐることは之を禁止した。然るに一八九四年十月裁判所は此政府の處分を以て違法であると判決した爲めに、田舎家地域にも公然兵營式貸長屋を認めることになり、爾來今までの別荘地に多數の大規模の貸長屋が建築さるゝことになつた。建築令が前に述べた如き結果を生じたにも拘らず、土地投機者は此建築令に對して尙ほ不滿を懷いて居つた。即ち田舎地域に對する取締を嚴重に過ぎるとして、伯林の郊外地に於ては此種の地域を全く廢止せしめるか、又は著しく之を制限する爲めに運動を始めた、其方法として投機者は自分等の機關新聞に於て此法令が國民の幸福を害するものであるとか所有權の沒收であるとか大都市の住宅には特別の樣式の必要があると云ふ合ひ言葉を以て田舎家地域に對する建築令は非常な經濟上の缺點のある法令として反對をした、殊にソリーデナウに於ては其半分以上が田舎家地域と定められて居つたので、此地域に關する議論が最も烈しかつた。プロイセン議會に於ても是が問題になつて一八九六年六月十日此法令を改正する爲めに專門家を集め調査をしやうと云ふ建議が可決された、政府は此建議を顧みなかつたのであるが幾分の讓歩をしなければならぬことになつた、一八九七年八月二十四日の改正は普通の建築を爲し得る地域を擴張して高層建築を許すことになつた、其外種々の重要な點に於て改正を加へて田舎家地域に三階建を一般に認めるやうになつた

郊外地に於ける建築規定の發達の跡を通觀すると投機者の利害に基き又は其運動に對して監督官廳が徐々に讓歩をした有樣である、是が爲めに住居狀態が著しく惡くなつたことは甚だ悲しむべきことではあるが、之を以て政府の失策であるとして責めることは出來ないと思ふ、何となれば從來のやうな風に輿論が建築令の改正に對して全く無關心であつて、大規模の貸長屋を建てることが經濟上有利であると云ふ誤つた思想が世人を支配して居る間は、如何なる政府も投機者の運動に對して永久に之を抑壓することは六ケ敷いと言はなければならぬ、加之、社會の耳目たる新聞紙上に於て此誤つた思想が主張され議會又は市會に於ても熱心に投機者の利益を代表する者がある以上は永久の市民の幸福を維持すべき正當なる改革が容易に行はれなかつたのは訝しむに足らないのである。

第二節　其他の原因

一八八七年の建築令は大規模の貸長屋の發達に對し法制上の根據を與へたものであつて、投機者は此法令を利用して、伯林郊外地の住宅樣式を一變したのであるが、當時發生した他の原因がなかつたならば此種の住宅は左程迅速には普及しなかつたであらう、今其等の原因の主なるものを擧ぐれば次の如くである。

前に述べた如く上水、下水の普及して居らなかつたことは大きな貸長屋を建築することの障害となつて居つた、建築令も上、下水の完備せざる街路に面して高層建築を許さなかつたのみならず、實際に於ても數階の大きな貸長屋に上水、下水の不完全な場合に殆ど借家人が無かつた、隨つて大規模の貸長屋を建てる場合には是非共上水、下水の設備を完全にする外なかつた、而して、郊外地に於ける水道の設備は一八七〇年頃の投機の最も盛に行はれた時代から計畫せられ、キストルプが會社を起した場合にも其會社の經營地に水道の計畫を始めた、此計畫は其設計を誤つた爲めに壯大なる貯水塔は後に至るまでキストルプの失敗の跡として笑話の種になつた、併し其後になつて此土地會社は水道に關し種々の計畫

を立て、一八八七年にはシャルロッテンブルヒ水道會社を設立し、一九二〇年までシャルロッテンブルヒに給水の權利を得た、此會社は段々其計畫を擴張して伯林の各方面の郊外地に給水することになつた

水道の設備と共に下水道も亦一般に普及し、從來は汚水を溝渠に流し又家の周圍に畑の在つた時分には、屎尿を之に利用したが、家屋の建築が增して來るに從つて種々の障害を生じ、完全なる下水道を設けなければならないやうになつた、殊に大規模の貸長屋の發達と共に是非共完全なる下水道を設ける必要に迫つて、一八八五年、八六年頃からシャルロッテンブルヒ及シエーネベルヒの大部分は伯林の下水道に接續して設備を設けることになり、シャルロッシテンブルヒは其外に獨立の計畫を建て此設備はシャロッテンブルヒに接續する二三の町村と共同して行ることになつた、是等の下水設備は一八九〇年十二月一日に竣工しハーベル河の下を通じて非常に大きな面積を有する灌漑地に放流することゝした、之に倣つて其他の郊外市町村も夫れ々々下水道を完備することになつた。

上下水道の完成は大規模の貸長屋を建築する爲めに衞生上から見て必要のこである、是と同時に種々な經濟上の變化を生じた、即ち上下水道の設備に要する費用は建築地を造成する爲めに必要な費用を著しく增加せしめ、家屋の建築費も是が爲めに增加し、隨つて家賃も永久に騰貴することになつた、又各種の地下工作物の關係上、幷に大規模の貸長屋の居住者の爲めに生ずる交通の增加に應ずる爲めに小家屋の場合よりは、一層完全なる道路の舖裝をしなければならない、是等の費用は一八七五年の法律、（建築線法）に依つて間口に應じて土地所有者の負擔に歸すべき性質のもので、斯の如き費用は小さな建物の場合には到底負擔に堪へないものであつて、是が爲めに裏家を持つた大規模の貸長屋は益々計算上利益有ることになつた。

以上の原因より尙ほ一層重要なるものは建築令の十二條の規定である、此規定に依れば市町村條例に依つて建築を爲し得る街路を定めることが出來ることになつて居る、伯林の例に依れば此規定に依つて

完全なる下水の設備の無い街路には一般に住宅の建築を禁じて居つて、郊外の町村も此例に倣つて居つた、其爲めに高層建築第二類の地域は實際に於ては建築をすることが出來ないやうなことになつた、其結果として地價は著しい變遷を生することになつて來た、何となれば一般市町村の財政上下水道を普及することが非常に困難であるから市町村は可成建築し得る地域を狹い範圍に縮めて、下水の設備なき其他の場所には住宅の建築を禁じて居つた、此點に於ては土地所有者の利害は市町村の財政上の利害と一致し、土地所有者は可成自分の土地を騰貴せしむる爲めに、建築の盛に行はれることを望まないから、建築し得る土地を狹い範圍に止める爲に、下水道の普及を可成徐々にすることに贊成したのである。

此結果として、建築禁止の制度のない場合よりも容易に投機を行ひ得ることゝなつた、思ふに總ての土地が建築敷地に用ゐらるゝ場合には投機者は今日の如き活動をすることが出來なかつたであらう、何となれば空地を長く其儘にして置くことに依つて其期間利子を損することが大きいからである、然るに前に述べた如く建築禁止の制度がある時は建築を許可せらるゝ地域は一種の獨占的性質を有するから、比較的小資本を以て容易に地價を引上げることが出來、且つ常に多少の住宅難を惹起することに依て土地の値段を騰貴せしむることが容易であるから投機が盛に行はれる譯である、然るに投機者は是と同時に住宅難が此法律上の建築の制限に依つて起つて來るものであると云ふやうな勝手な主張をして居つたのである。

今、建築制限に關する議論を了るに當つて一言附加へて置かなければならぬことは、郊外地に於ける街路は總ての場合に二三米一八又は一五米突の廣さに造られて居つて、此程度迄の高い建築物は許されて居つたので、相當に高い建物が出來る餘地がある。又テルトー郡に於ては軒續きの家を建て得る地域に於て、警察令に依つて一五米突より少い街路を築造することを禁止して居つた、唯田舍家區域に於ては一二米突の街路の築造を許すと云ふことになつて居つた。

現場工事管理に就いて（上）

會員　工學士　本田　登

事業の經營は英邁なる管理者優秀なる技術者を要求すると仝時に尤も卓越せる科學的管理法の應用を必要とするは自明の理である。

晩近社會文化の進運は思想上又は經濟上に多大の變化を來し土木建築事業界にも之等の反響は職工の操縱難と賃金の騰貴を來し而かも彼等の能率は却て減退するの傾向を示すに至つた。

自分は工事旋工者として此業に從事する職工等に密接するの機會を得た職工は一種の心理的偏見通有性を有するものであらう彼等の技倆は淺薄に流れ其能率は減退しつゝあるは社會文化の反映とは云へ且つ又彼等を指導訓練するの機關なきと同時に彼等を組織的に管理する方法の偏く利用されない結果とも云はねばならぬ。

左の拙文は管理法の原理を述ぶるものではない只自分は工事實施監督者として得たる經驗に依り監督者及ば現場從事者に必要なる事項を列記し以て工事の進捗工費の節約を計るの參考に資すると仝時に將來當事者に依りて益々斯種の研究を進められん事を希望するものである。

(一)職　務　分　割。

吾人は極端に異れる智能と筋力とを先天的に享有して居るものである或る職工は岩石を穿鑿するの技倆を有して居るが或る職工は穿鑿された岩塊を運搬するに充分なる力量を有して居る又或者は測量の如き數量的作業に長所を有して居るが又或者は職工を操縱するの技倆を有して居る更らに之等の異れる技倆を持つて居る職工も實際の指導と訓練によりて人爲的に長所を益々得達せしめ短所を啓發向上せしむ

る事が出來得る故に其職工等の長所を利用し比較的簡易になし得る作業を與ふれば其仕事の能率を增進せしめ得ることは之れ自明の理である而れども事項は餘りに單純なるを以て實際問題として却て等閑視せらるゝ場合に多い。

「フレデリック、ダブルユ、テーラー」(Frederic W. Taylor) は職務分割の法則を作つた最初の人と云はれて居る彼れの說明する所は土木建築の施工上に於ける秩序的作業は各職務を異にする職工頭の適宜なる現場配置によりて實施されねばならぬと主張し且つ此方法を實際に適用して大に效果を擧げ得た人である例へば或る職工は設備器械又は工具に關する特別の興味と應用上の智識を有する場合に勿論其技能を利用し之等に關する仕事を擔當せしむるのみならず彼れに出來得る限り收良研究の機會を與へ完全に機械の能率を發揮せしむるの間斷なき努力をなさしめ又或る職工頭は煉瓦積又は「コンクリート」打工事の如き團体的作業 (Gang system) に於ける技倆の程度を異にする多くの職工の組合配置等に特に堪能なる場合は常に此作業組織の方法を研究せしめ各團体に依て實施されたる種々の場合に於ける仕事の量と作業時間の記錄に基き作業成績統計を表示せしめ比較研究の上職工配置の改善を計るが如き又或る職工頭は必要なる材料の注文督促現場配給等に關する經驗と技倆を有する場合は常に此職務を擔當せしめ材料の不備又は配給の不平均による作業職工の時間空費を最小限ならしむると同時に配給の敏活に依て職工の進取的作業の愉快を增さしむるが如き又は材料の整理保管流用に留意し損害を最小限ならしむるが如き卽ち「テーラー」氏の主張する職業別の職工頭 (Functional Forman) を適當に配置して施工上の監視を爲さしむる方法である。

此職務分割の法則　工事の大小又は條件によりて必要なる職工頭を配置し夫れ夫れ其職工等を指導し作業を監視せしむるのである而れども其組織法は必ずしも軍隊的の如く單純にして實行し易きものではない故に此點に於て其管理法は一層困難なるのみならず更らに研究考慮を必要とするものである軍隊的

組織は上官の指揮のもとに絶對に服從し而かも其命令に依て成し遂げらるべき仕事の分量は之れ又絶對的に大量でなければならぬ而るに工事施工上に於ては必ずしも之れと同一ではなく例へば鐵骨建築に於ける鐵材の組立ては器械力に依て大に其仕事の能率を增さしむると雖も之れと仝時に其設備は工事の條件工事の大小又は工事の期間に依る何れの場合にも尤も經濟的でなければならぬ之れ即ち其管理法に於て前者と大に其根源を異にする所である。

職務分割の法則は大規模の工事に於ては尤も理想的に應用し得らるゝものである小規模の工事には之れが應用は却て工費を高め工事の進捗に支障を來す場合は決して尠くはない而れども斯かる場合には職工頭を配置せず單に統一的に指定した職務の割當てに依て工事の施工を行はねばならぬ例へば數名の大工を使用する場合に於て或る時間は「コンクリート」の堰板を作らしめ或る時間は運搬車の修繕をなさしむるが如く其作業の割當は尤も有効に行はねばならぬ仕事の交代には多くの時間を空費し且つ交代の績々行はるゝことに依て大に仕事の興味を減殺するものである故に此かる場合に於て同一職工に對し種々雜多なる仕事の割當は大に考慮を要するものであらう。

(二)職工訓練。

工場又は現場に於て管理者又は監督者は作業中の職工に對して彼等を訓練指導するの目的により時々口辯を以て仕事の失策或は其緩漫を譴責し徒らに長時間に亘りて其自由を牽制することは決して職工訓練の完全なる方法と云はれぬ印刷物によりて豫め此等の注意を與へ其失策を未然に防ぎ或は適當の時間に於て訓練指導を爲すべきものであらう「フランク、ビー、ギルベレス」(Frank B. Gilberth) は自己の使用する職工を訓練指導するに凡て印刷物によりて其目的を達し大に効果を擧げ得た人である彼れの著書施工法 (Field system) は即ち之れである又彼れの著書煉瓦積の方法 (Brick laying system) は同じく彼れの使用する煉瓦上に改良されたる作業方法を敎ゆるに編纂された小冊子である彼れは作業中の煉

瓦工に就て働作と時間の詳細なる測定を爲し之れが研究に依て全く改善された作業方法を案出したのである又他方面の一例を擧ぐれば米國の「ナショナル、キャッシュ、レジスター」會社（National cash Resister Co.）は尤も優秀なる販賣人を養成するの目的にて販賣人の普通に心得ふべき商略秘法の筋書きを編纂した印刷物を發刊し之れを販賣人に交附し不斷に彼等を養成して居る又此會社は隨時に販賣試演興行を爲すの目的にて特に大講堂を設備し販賣實習に依る養成法をも實行されて居る職工の訓練指導に於ても此方法を應用し得ること必ずしも困難ではない只管理者の努力研究に俟つものであらう。

(三)同　格　作　業。

各種の團体的作業に於て其各團体を組織する職工の技倆は出來得る限り同等なるものを組合せ配置するときは其團体的作業は著るしく仕事の能率を增すものである實際問題として之れを考ふるときは例へば煉瓦積工事及び石工事の二つの團体作業に於て若し此團体を組織する職工の二人或は三人が他の職工と比較して其技倆劣等なる場合又は正規の時刻に作業に着手せざる場合の如きは其等の事情の欠陷により煉瓦積工事又は石積工事は作業能率を阻害せられ爲めに仕事の出來高に支障を及ぼす實例は屢々目擊する事である之れは團体内部の欠陷に依る場合であるが之れと同樣の意味に於て團体と團体との關係を論ずる事は出來得る例へば建物の壁体工事にありて石工は表側の石を積み煉瓦工は裏側の煉瓦を積む場合を考ふるときに若し石工の團体は技倆優秀なる職工より組織さるゝときは小時間に多量の石材を積み終るであらう此際煉瓦工の團体は技倆劣等なる職工より組織さるゝときは石裏煉瓦積に多くの時間を要し之れが爲めに石工の團体に充分なる作業能率を發揮せしむる能はず從て壁体工事が進捗を阻害する結果となるのである斯かる場合に若し職工等は常傭制度によりて傭はるゝ中は一層工事の進捗を阻害するものである煉瓦工の作業緩漫を目擊する石工の團体は煉瓦工の團体と作業の關聯的調節を計る爲め故意に工事を遲滯せしめ或は時間の空費を考へ之れが爲めに工事の統一を欠ぎ作業の規律を亂す等の弊害が

生れるものである。

工事監督者又は管理者は職工の技倆を不斷に調査して之れを巧みに配置することの如何に必要條件であるかは前述の一例によりて明白であるが之れと仝時に材料の配給工事器械又は工具の配置等にも充分の研究を必要とすることは勿論である。

故に此法則を實際に應用して完全なる結果を擧げるには次ぎの四條件の研究より進まねばならぬ。

一、工事の工程及び職工作業日程を定むること。

二、材料の納期を定め其配給を完全ならしむること。

三、工事器械及び工具の設備並に配置を完全ならしむること。

四、供給物品の條件及び品質の研究。

工事監督者又は管理者は工事の實施前に於て詳細なる工程を定め之れが完成に要する時間を豫測せねばならぬ、而して其豫測を基準として必要なる職工の日程及び配置を考へねばならぬ工程は其間不可抗力又は人間自然の勢力より生ずる怠業又は罷業或は施工上の次陷によりて實施と一致せざる場合は多い此所に於て實施の測定は尤も必要なる條件でなければならぬ工程と實施の測定とを比較研究し工程以上に工事の進捗を來したるときと雖も一層の改善を計り萬一工事の遲延を來したるときは詳細なる調査を遂げ其原因の何れにあるやを考究し直ちに工事の計畫或は職工の配置を新規一轉し更らに完全なる施工上の方針を企劃せねばならぬ多くの職工の技倆は工事の實施測定によりて定められ而して斯かる場合に於ける作業は出來得る限り同等の技倆を有する職工の組合せ配置に依て特に仕事の能率を增すものである。何れの工事場に於ても其工事の條件の如何に關せず常に倉庫容量の許す限り材料を貯藏することは尤も必要なる條件である、材料の工事場に到着するの遲速は其進捗に多大の影響を與ふるは勿論其結果作業職工に仕事の倦厭と愉快の感を起さしむるものである、仕事に對する愉快は工事の進捗を促し倦厭

は工事の澁滯を來す故に此職務に從事する人は常に各種材料の處理並に配給の方法を研究せねばならぬ尙又工事場に貯藏せられたる材料と雖も係員の不注意又は失策により適所に配付せられず爲めに職工の作業時間を空費せしめ又は或種材料の全然不用に終る實例決して尠しとせず特に鐵筋「コンクリート」工事に於ける鐵筋の處理法は餘程の訓練を要するものである、多くの方法の異れる鐵筋は何れの部分に適當に使用せらるゝや又如何に切り揃へ使用せらるゝやは勿論方法と使用期日とを豫測し之等の仕譯配給を完全ならしめねばならぬ。

建築材料の輸送は汽車便又は汽船便によりて取扱はるゝ場合は尤も多い故に此職務に從事する職工は貨車輻輳の場合又は海上不穩の期節を考慮し豫め運輸狀態を研究すると共に又輸送の順路哩程關係等をも調査し使用期日前必ず現場に完納せしむる樣努力せねばならぬ。

完全なる器械は完全なる仕事を爲すものである器械を完全に働かしむるには不絕嚴密なる觀測と修理を施こさねばならぬ器械の不慮の故障は到底豫測し難きも器械の能率の增減は測定し得らるゝものである、此測定は從業者の報告により器械の運轉時間及び仕事の量を比較研究することにより其目的を達することが出來得る粗惡なる材料の供給は工事の進捗に多大の支障を與ふるものである惡質なる石炭は鍛冶工の作業に不愉快を與ふると同時に鐵材の性質を著るしく損ずるものである斯かる條件のもとに造られたる工具や鑿岩機は屢々破壞し仕事の能率を殺減するものである、故に工事場に於ける供給物品は其用途に適應すべき善良なる品質のものを撰定し使用すべきこと勿論である。

住宅難と秕政

代議士　紫安新九郎

□住宅の缺乏に對する處の、所謂住宅難の呼び聲は、今も尙ほ世界の大概な邦を通じての問題であり、殊に、日本は、多々增々斯の問題が瀰漫し、且つ其重要さを增して來ると想ふ。要するに、我住宅問題は、是より、日本に於ける對內政策の油々しき問題としての將來を有するものと考へられる。

□實は、從來どの政府も何れの政黨も、斯の問題には餘り觸れてゐなかつたが、是からの爲政者は、住宅問題を單に區々たる地方問題視せずして、恰も英吉利の中央政府が、住宅の補充的建設に思ひ切つた大政策を採つたように、國家的問題として考へなければならぬ時機に瀕むでゐる、と私は信ずる。

□併し、住宅難を唱ふる人達の、其住宅難に關する概念に立ち入つてみれば、遺憾にも、其多くは、單に人口の膨脹と住宅建築との均衡が取れないに因るのだ、位にしか思ふてゐない。卽ち、素朴的に云はゝ、「住宅難は單に住宅難だ」位な程度に解されてゐる樣である。果して幷麼單純なる事實であらうか、先づ是を考へてみたい。

□私をして云はしむれば、我邦に於ける今の住宅難なるものは、少くとも、現政府の秕政の結果だ、と觀て差支へない、と信ずる。英吉利抔の住宅難は、大戰の結果に直接原因を有つてゐるのだ、卽ち住宅建築等の手控へ、戰場より一時に多數兵士の歸還等に由るが、日本の住宅難は、それと趣きを異にして、要するに、秕政が其主要な原因である。

□我邦の人口の膨脹率は、今尙ほ可成り急速な高度を有つて居り、それと住宅の供給が比例せない事も住宅難に陷る一事由には相違あるまいが、それよりも、重大な原因は、現政友會內閣の秕政の一結果た

る物價騰貴に直接原因するのである。それをしも考へずして、住宅難は住宅難である位な處で行き止まるのは、餘りに淺慮ではあるまいか。

□蓋し、日本の大概な都會は、住宅の缺乏に苦められてゐない處は無いと同時に、地方農村の如きに到つても、特殊地主階級を除く外は等しく物價騰貴に苦められ、鍬鋤を捨てて都會に集中し來るは、其率に於てこそ時に多少な緩嚴あれ、それ等の事實は今も何の渝りはない。隨つて農村は荒廢し、都會は住宅難と其他の社會問題を頻生する。

□試みに、それ等都會に於ける住家建築の實際に觀よ、特殊な住宅若くは投機的轉賣を目的とせる住宅の外、住宅建築に投資するを手控へる結果、中産以下の住宅は、孰れの都市としても、概して供給が少い。今日の物價を以てし勞賃を以てしては、住家建築の投資者たるもの、怨聲の街と成つてゐる程爾く好投資物ではない。

□然らざれば、法外な暴利に店子を泣かしむ低な因業を遣る種類の外、何人も住家建築に投資を手控へるのは、現下に於ける住宅難を原因するのである。而して、其由因は、所詮、當局が物價政策を誤り尚ほ之を悛めざるに因る。斯くて、政府は、思想の險惡を釀成する處の所謂社會問題に自ら苦み乍ら、他面、之を製造してゐるのだ。

□即ち再言すれば、今日の住宅難なるものは、近年增々膨脹率を高め來れる都市人口の集中に在りて、其人口集中の勢を激成せるものは、所詮、戰時中に於ける經濟界の好景氣に胚胎したのである。而して、其集中し來れる人口の大部分は、實に、地方農民若くは農民の子弟によつて占められてゐる樣である。

□斯く農民が鍬を棄てゝ都市に集中し來れるは、他に今一つの原因がある。卽ち、實に、農村の經濟的疲憊である。試みに、農村の現狀を視よ、農村に於て二三町步の田畠を有する地主の收得は、一輛の荷車と一頭の馬に生計を托する一介の勞働者のそれに及ばない。況して、小作農民のそれに到つては、寧

ろ悲慘だと云つて可い。

□斯る經濟的激迫は、竟に、それ等農民を驅り、都會に經濟上の逃避所を目付むとて、集中の勢を激成するは自然の理趨であり、隨つて、所謂住宅難を叫ぶに到るは必然な成り行きである。故に、私は謂ひ度い、都市住宅難は、地方農村の疲憊に由因すと。

□されば、住宅難の解決は、其都市に於ける住宅政策の確立——而も現時の狀態を以てせば、從來の如き繰に「住宅組合」の區々たる政策に止らずして、思ひ切つた一大政策を要すると同時に、他面、農村問題の解決を攻究せなければならぬ。けれども、尙ほ、住宅難と農村の疲憊は、實に、政府が物價政策を誤れるに原因するのであるが故に、斯の政策を矯正するでなくば、眞に住宅難を解決する事は得難いのである。

□私はそれ等に就いて談ずべきものゝ多くを有つてゐる、けれども、今一々此處に談ずるの遑がない。唯、住宅建築を助長する一方法として、恰も、農村等の開墾事業に對して所謂鍬下免租あるが如くに、市町村に於て、住宅を新築せる者に對しては、十箇年間位其公課を免除することも、住宅難を緩和するに良好な方法であらう。

□其他、貸家の需給は、財界の景氣と離な關係を有する事上述の通りであるから、不景氣其他の原因に由りて貸家の空きたる場合は、其市町村が之に對して一定の補償を爲し、又賃貸に對しても、相當な利率を標準として制限を附する、といふが如き制度を採るも、亦其一方法である。

□併し、それ等の個々な政策は、亦何んとでも考へようがあらう。それよりも、全く、住宅難の病巢に突き入つて、斯の問題を解決せむとするならば、何としても、政府當局者の誤れる物價政策を悛めしむるより外にない。區々たる小政策に幾等最善を盡そうとも、斯の根本的政策の悛められざる限りは、竟に大した効果はあるまい。卽ち、所詮は、漏水を防いで尙ほ壓力を增すようなものだ。

□政治は、政治の爲の政治でない。素より、一集團又は一階級者の爲の政治でもない。即ち、國民凡ての生活に觸れない政治は、竟に、政治の本義を沒却するのであつて、斯くの如き政府であるならば、國民とは沒交渉であるが故に、それが政友會内閣であらうと、官僚政閥であらうと、將た何であらうと、幷は國民の關する處でない。

□即ち、國民の生活を脅し、多數民衆が、所謂枕する處なき寓居すらの不安を愬ふるに到らしめた原因を拵へ、而も尙ほ頑迷に其非を悟らざる政府ありとすれば、國民生活に交渉なき政府であるが故に、斯る政府は、國民の政府でなくして、與黨若くは少數者のそれである。多數國民が斯る政府の存在を容す事は、實に無意義な業である。

□私は更に住宅難の見方を變へたい。斯くの如く我多數國民が住宅難に脅かされてゐる事は間違ひのない事實である。けれども、それ等の人達は、不安乍ら兎にも角にも何處かに落ち着きを得るであらう。併し其結果は何であらうか、申す迄もなく、群住、雜居、共棲等の形態を以て現はれる一戸世態數の膨脹である。

□種々多樣な社會問題の製造所の一つは此處である。忽ち、國民衞生上の保健問題、國民道義に於ける風紀問題、當面是だけでも社會問題を發生するのだ。勿論是許でなく、家賃の暴騰は必然な結果である而も、それは、物價暴騰に伴ふ一般の傾向である。而して、家賃の騰貴するとは、廳て、それが勞賃と生産に遞次轉嫁される。

□即ち、物價政策の秕政に伴ふ住宅難、住宅難に由來する家賃の騰貴、一般物價と共に家賃の騰貴に由る勞賃を主とする勞働者問題の惹起、隨つて、それ等を生産費に轉稼され、斯くて、再び、生産物——物價の騰貴を來し、少くとも之を維持する。其結果は、依然住宅建築方面に於ける投資に影響して、住宅建築の手控へ、而して、依然住宅難である。

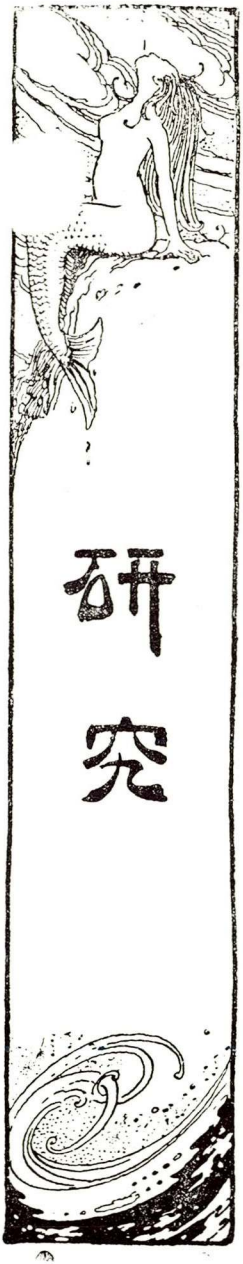
□何んの事はない、政府は、池心に、「物價政策の秕政」といふ巨大な石を投じたのだ。否な攪亂したのだ。竟に波紋は波紋を產み、惡結果は惡結果を產むでゐる。「國民生活」てふ池心は、——然り平靜なりし池心は、斯くて不安な動搖を來してゐる。而も、尙ほ「秕政」の巨手で攪き混せようといふのだから、愚竟に及ぶべからずだ。

□國民たる者、凝ッと彼れが攪拌の手元を視るがゐい。そして眞劍に考へるがゐい。口火を附けなくて、火は手元へ燃へて來ようがない、お互に住居の不安を愬ふる住宅難も、其口火は何人の手によつて附けられたのか、よく考へてみるがゐい。徒らに住宅難を呪ひ、喧に住宅難を談ずる愚を廢めて、もそッと系統的に考へてみるがゐい。

□現政友會內閣の物價政策を誤つた事を此處に具體的に述ぶるのは、餘りに陽光の明るきを談ずるの愚に等しい。併し、其一二を概說すれば、戰時に膨脹した在外正貨の處理を誤つた事である。其當時、在外正貨十八億圓も抱へて、之を其儘在外銀行の庫底に預託した結果は、貿易差額の決濟上內地通貨の膨脹と成つたのだ。

□通貨の膨脹とても、國民一般の懷中に金貨がたぶついてゐるなら、まだしだが、在外正貨との決濟だから、だぶ付く奴は少數な資本家連中である。私は、何故、政府がそれを以て外債の償却に供し、又は外債を買入る抔の措置に出でなかつたのであるかを疑ふ。是が抑も通貨政策を誤つた秕政の一とつである。

□今や、在外正貨十二億に減じ、貿易は逆超に次ぐに逆超を以てし、工業界に於ける凡ゆる事業は、疲憊困敗の極に達し、民心亦漸く政治に倦み、生活難に困倒せむとする。而して住宅難は一段と斯る傾向を著しからしめてゐる。住宅難の解決は、須らく、斯の根帶に質さざれば、竟に、百年河淸を待つの愚に等しい。國民の眞劍を希ふべき事である。（文責在記者）



建築物の內外に於ける日射關係幷に「サナトリウム」建築上の應用に就いて (一)

京都帝國大學 醫學士 富永孟

緒言

一、九千三百萬哩の遠方に在りて方數間の屋內にも等しく光と熱とを供給するものは彼の太陽なり。日光は淸淨なる外氣と共に身體の健康を保持し病的機能の恢復を促すに必要なる一大要素なり。大氣自身と雖も成るべく日光の透射を受け、且之に依て間接に溫熱を得、以て適當の溫度を保つに非ざれば吾人の生活に適せず。

建築物及び其周圍の土地は降雨により多量の濕氣を含蓄す。而してこは日光の直射により速に乾燥するに至るものなれども、若し日光の照射不充分なる時は水分の蒸發する事遲く、長時日に亘りて濕氣を蓄ふるに至り、光線の不足と

相待ちて微生物の蕃植に好機を與へ、且直接人體に惡影響を及ぼす事あり。故に住宅或は病舍を設計するには當に室内に於ける日射に注意を要するのみならず、建築物の四周に於ける日射關係も亦等閑に附する事能はず。コハ就中「サナトリウム」の建築上大切なる衛生的條件の一なり。

抑々肺結核患者治療の第一歩は病室の内外に於ける衛生的條件の完備を以て始まる。故に「サナトリウム」を建設せんとするには諸般の衛生設備と共に室の内外に於ける日射關係に就て充分考慮するの要あり。若し日光の照射良好ならんか、直接患者の精神上に及ぼす効果大なるもの有るのみならず、日光浴或は外氣療法施行上多大の便宜を與ふるものなればなり。

室の内外に於ける日射の多寡は建築物の構造如何により多大の影響を蒙るのみならず、一地の地理的及び氣象的要件たる緯度、地勢、季節雲量等も亦た密接なる關係を有す。而して是等の要件と室の内外に於ける日射との間には互に數學的關係の存するものあるを認む。

大正六年「サナトリウム」を當地に建設するに先だち、余は年内に於ける太陽の位置の變化と室の内外に於ける日光照射との間に成立せる數學的關係に就て考ふる所あり。且建築地附近に於ける地勢の影響をも顧慮の下に米國建築設計家ヴオリーズ氏(Vories)と協議し、成りしもの即ち近江療養院なり。以下本文に於て述べんと欲するものは是等の知見にして、余はその實例を總て當院の本館に採れり。若し將來「サナトリウム」又は病舍を建築せんと欲する者の爲に幾分にても參考の資料を供する事を得んか余の本懷とする所なり。

第一章　年内に於ける太陽の位置の變化

二、日照の關係を知らんと欲するには先づ太陽の時々刻々に於ける位置の變化を知るを要す。斯は一日中の時刻、日、緯度に關する函數なり。今

h　太陽の高度
A　方位角
δ　日赤緯
φ　緯　度
t　時角とすれば
球面星學に於ける公式に從ひ

$$\sin h = \sin\delta \sin\gamma + \cos\delta \cos\gamma \cos t \cdots\cdots(1)$$

$$\sin A = \frac{\cos\gamma \sin t}{\cos h} \cdots\cdots(2)$$

なる關係あり。從て某地、某日、某時刻に於ける太陽の位置は(1)より高度を算出し、次でその値を(2)に押入してその際の方位角を求むる事を得。但しγは天體曆に據り、γsは地圖に據り定む

第一表は平分日及び夏冬二至に於て、日出より正午に至る迄の毎時間（地方眞太陽時）に於ける太陽の位置を上式に據り余が算出したるものなり。但し=23.5°とせり。例を特に二分二至に採りたる理由は年内に於ける太陽の位置最特異なるを以てなり。

第一表　二分二至に於ける太陽の位置

I. 平分日

太陽＼時	6	7	8	9	10	11	12
h	0°	12° 17′	24° 13′	35° 25′	45° 12′	52° 19′	55°
A*	0°	8° 43′	18° 27′	29° 49′	44° 47′	64° 57′	90°

II. 夏　至

太陽＼時	4時49分	5	6	7	8	9	10	11	12
h	0°	1° 56′	13° 11′	25°	37° 9′	49° 25′	61° 31′	72° 33′	78° 27′
A*	−29°6′	−27°33′	−19°32′	−12° 7′	−4° 34′	4° 20′	15° 53′	37° 38′	90°

III. 冬　至

太陽＼時	7時11分	8	9	10	11	12
h	0°	8°29′	17°39′	25°	29°50′	31°33′
A*	29° 6′	36°33′	47°6′	59°36′	74°7′	90°

* 立位角は便宜上持に正東を0°とし、南に向ひて測りしものを(十)として記せり。

第一表に就て吾人の注目す可き點次の如し。

1、北緯 35° 附近の地方（東海道、近畿、中國地方）にありては、夏至太陽は大凡東より北30°の地平線上より出で、西より北 30° の地平線下に沒する事。冬至日出の方位は東南 30° に在り日入の方位は西より南 30° に在り。平分日には正東より出で、正西に沒する事。

2、夏至の前後には太陽は午陽は午前八時半正東の方位にあり、午後三時半正西の方位にあり3、太陽は夏至の正午殆ど 80° の高度を有し、冬至は僅に 30° に過ぎず。平分日の正午にありてはその中間なる 55° なる事。

4、各時刻に於ける太陽の見懸運動の變化を見るに、同一時間には同一角度の方位、又は高度を規則的に增減するものに非ず。方位角の移動は一般に正午に近づくに從ひ大と成る。コハ特に夏至に於て然り。冬至に於ては甚しからず。平分日にありてはその中間にあり。

5、高度の變化は之と異り、寧ろ太陽が正東の方位に近き時大なり。即ち平分日に於ては日出時最大にして、夏至にありては日出と正午の間にあり（八時より九時迄）。冬至にありては稍々日出時に偏す（九時前後）。

次表は第一表に據り一時間毎に於ける太陽の方位角、及び高度移動の大さを示したるものなり。

第二表　毎時間に於ける太陽の方位角並に高度移動の大さ

I. 方位角の變化

時 / 季節	4時49分—5	5—6	6—7	7—8	8—9	9—10	10—11	11—12
平分	—	—	8°43′	9°44′	11°22′	14°58′	20°10′	25° 3′
夏至	1°33′	8°1′	7°25′	7°33′	8°54′	11°33′	21°45′	52°22′
冬至	—	—	—	7°27′	10°33′	12°30′	14°31′	15°53′

II. 高度の變化

時 / 季節	4時49分5—	5—6	6—7	7—8	8—9	9—10	10—11	11—12
平分	—	—	12°17′	11°58′	11°12′	9°47′	7° 7′	2° 41′
夏至	1°56′	11°15′	11°49′	12° 9′	12°16′	12° 6′	11° 2′	5° 54′
冬至	—	—	—	8°29′	9°10′	7°21′	4°50′	1° 43′

6、天文暦に據れば日赤緯の變化は平分前後に於て最大にして、二至の前後に於て最も緩徐なり。從て日々に於ける可照時數の變化は平分に近き頃大にして二至に近き頃小なり。

例へば大正九年六月二十一日(1)を隔つる二週間以前と二週間以後に於ける日出時刻の差は僅に6分に過ぎず。されど三月二十一日より二週間以前と二週間以後とに於ける差は實に四十分と成るを見る。

吾人は斯の如くにして某日、某時刻に於ける太陽の位置を知る事を得。從て日射の方向は之より容易に計算する事を得べし。即ち

$$\cos r = \cos h \cos A \quad \cdots\cdots\cdots\cdots (3)$$

第二章 建築物の周圍に於ける陰影

第一節 建物の方向と地上に於ける陰影との爲す角

3、建物の正面の方向をa日の方位をAとすれば正面の方向と地上に於ける陰影との爲す角は

$A-a$

但しA a共に正南を0°とし、西に向ひて測りしものを(+)とす。故に若し日の方位が正面の方向より右方に在る場合には$A\wedge a$にして上記の値は(+)なり。從て陰影は建物の左側に生ず若し日の方位が正面の方向と一致すれば、上記の値は0にして陰影は家の背面に生ず、若し日の方位が正面の方向より左方に在る場合には、$A\wedge a$にして、上記の値は(−)にして、且陰影は建物の右側に生ず。故に一般に$A-a$の値が(+)なるか、0なるか、(−)なるかに從ひ吾人は直に陰影は建物の左側、或は背面、或は右側に生ずる事を知り得。

第二節　壁に放ける日射時間の長短、及び壁に對する日射方向

4、第一表に據り吾人は或る方向に面せる壁は大凡幾時間日光の照射を受け得べきかを知る事を得。例へば南面せる壁は

平分日　午前六時より午後六時迄十二時間

(1)大正九年航海年表　上卷　海軍水路部發行

夏　至　午前八時半より午後三時半迄七時間

冬　至　午前七時十一分より午後四時四十九分迄九時三十八分間

東向の壁にありては

平分日　午前六時より正午迄六時間

夏　至　午前四時四十九分より正午迄七時十一分間

冬　至　午前七時十一分より正午迄四時四十九分間

かゝる際、壁に對する日射方向r'は

$$\cos r' = \cos h \cos (A-a) \cdots\cdots (4)$$

例へば南向の壁に對する日射方向は、上式より

平分日の午前十　時　60°17'

十一時　56°23'

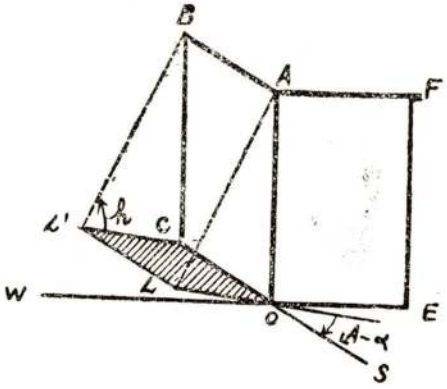
正　午　55°

東向の壁に對しては

同日　午前十時　60°3′
　　十一時　75°1′
　　正午　90°

第三節　建物の周圍に於ける陰影の長さ

5、今太陽の高度hなる時、aなる高さを有する棒を平坦なる地上に垂直に立つる時は、その影の長さは。



$$l = a \cot h \quad \cdots\cdots (5)$$

なるは明なり。されど建物の周圍に於ける陰影の長さを知るには、單に屋上の一點が地上に投ずる陰影の長さを知るに止まらず、各部分の陰影に就て考ふるを要す。一般に建物の周圍に於ける陰影の最長距離は日の高度、方位と共に建物の高さ、奥行、並に正面の方向之に關す。

第一圖に於てAOEFを建物の正面とし、OSを正面の方向、OAを高さ、OCを奥行、A,BL'を日射方向、A,Bの地上に投ずる陰影をそれぞれL,L'とす。かゝる際は單にOL'或はCL'の長さを知るのみならず、CL'即ちこの場合AOCBなる側面の地上に於ける陰影L'OCL'の最長距離を知るを要す。

今aを建物の高さ、bを奥行とすれば

$$CL'CO = 180° - (A - a)$$

$$CO = b$$

$$CL' = a \cot h$$

一般に二邊及びその夾角を知りて、その角の對邊の長さを求むるには、平面三角の公式に從ひ先づ他の二角（假にB及びCを以て表す）の差を求め、次で第三邊の長さを求むべし。之を上記の場合に當嵌むれば

$$\tan\frac{1}{2}(B-C)=\frac{(b-a\cot h)}{(b+a\cot h)}\tan\frac{1}{2}(A-a)\Big\}\cdots(6)$$

$$\angle OL'=\frac{(b+a\cot h)\cos\frac{1}{2}(A-a)}{\cos\frac{1}{2}(B-C)}$$

この二式何れも$a'b'a$なる常數を含み、且Ahなる二變數の函數なる事に注意すべし。

第三表はOLの値にして、第四表はOLの値を示す。

但しOLの値は年内に於ける陰影の最短かき時即夏至の正午に於けるaの長さを單位として換算したるものにして、若し陰影の長さを長さaの幾倍なりやを知らんとするには、各欄の値に0°2を乘ずれば可なり。何となれば$\cot 78°42'=0°2$。

第三表　$l=a\cot h$　（但し夏至正午の値を單位とす）

季節＼時	夏至	平分	冬至
4時49分	∞	—	—
5	148·0	—	—
6	21·3	∞	—
7	10·7	2·3	7時11分
8	6·6	11·1	33·5
9	4·3	7·0	15·7
10	2·7	5·0	10·7
11	1·6	3·9	8·7
12	1·0	3·5	8·1

第四表　第一圖に於けるOL'の長さ

I. 高さ：奥行＝1：1

II 高さ：奥行＝2：1

季節＼時	夏至	平分	冬至	夏至	平分	冬至
4時47分	∞	—	—	∞	—	—
5	29·2	—	—	58·8	—	—
6	4·07	∞	—	8·3	∞	—
7	2·16	4·83	7時11分	4·17	9·4	7時11分
8	1·6	2·72	∞	2·74	4·85	∞
9	1·36	2·1	7·35	2·04	3·41	14·0
10	4·26	1·84	3·92	1·66	2·78	7·05
11	1·22	1·73	3·04	1·47	2·48	5·17
12	1·2	1·7	2·71	1·4	2·4	4·45
			2·62			4·24

第11圖は第四表Iの場合、即ち高さと奥行の比が同一なる場合に西壁がその周圍の地上に投

ずる陰影を示したるものにしては、OP, OQ, OR それぞれ夏至、平分、冬至に於ける日出時 oA の投ずる陰影の方向にして、長さは無限大

L′,L″,L‴の各線は各季節に於ける OL′ の軌跡にして、線上の數字は時刻を表す。故に OP と L′曲線の圍む平面は夏至に西壁が半日間に投ずる陰影と成り、OQ と L″ 直線間は平分日に、OR と L‴曲線との間は冬至に於ける陰影なり。

但し實際にありては東壁も亦同時に、同方向に陰影を生ずるを以て、建物全體の陰影を知るには EF 線の延長上にも同一の線を描く時は可なり。

特に注意すべきは平分日に於ける OL′ の軌跡は曲線を爲さずして、東西線と並行せる直線なる事是なり。即ち日日にありては OL′ の長さは時刻により異なるも、L′點の位置を南北の方向に測る時は常に同長なる事之なり。然らばその距離如何。

東西線と L′線間の距離 $= b + a \cot h \cos A$

然るに $\cot h \cos A = \dfrac{\cos h \cos A}{\sin h}$

而して平分日には $\delta = 0$ なるを以て

$$\cos h \cos A^{*} = -\cos y \sin \delta + \cos \delta \sin y \cos t$$

$$= \sin y \cos t$$

$$\sin h^{*} = \sin \delta \sin y + \cos \delta \cos y \cos t$$

$$= \cos y \cos t$$

$$\therefore \cot h \cos A = \frac{\sin y \cos t}{\cos y \cos t} = \tan y \Big\} \quad \cdots\cdots (7)$$

$$\therefore \text{高線間の距離} = b + a \tan y$$

即ち兩線間の距離は時刻、太陽の位置に關係なく、建物の高さ、奥行、並に其地の緯度に關する事を知る。且逆に若し兩線間の距離と、b′ aを測る時はその地の緯度を知る事を得べし。

L″ 線上の一點より ON 線に至る迄の距離を d とすれば

$$d = a \cot h \sin A = \frac{a \cos h \sin A}{\sin h}$$

然るに $\cos h \sin A = \cos \delta \sin t$

$$= \sin t (\delta = 0 \text{の} \text{時})$$

$$\therefore d = \frac{a \sin t}{\cos y \cos t} = a \tan t \cdots\cdots (8)$$

若し $y = 35^\circ$ $a = 1$ とすれば。

$$d = \frac{1}{\cos 35^\circ} \tan t = 1.22 \tan t$$

猶夏至に於ける OL′ の軌跡は南に向ひて彎曲せる曲線を爲し、冬至にありては之に反して南に向ひて突出せる事も亦注目に値す。コハ床上に於ける日射面に於ても同樣なり（第九圖參照）

南向の家屋、病舍にありては室内に於ける日射關係良好なるは吾人の熟知する所なり。されど北壁及びその附近の土地は日光を最多く必要とする秋分より春分に至る半箇年間少しも直射せられざるが欠點とす。吾人は室内に於ける日射關係良好なると共に、建物の周圍に於ける日射關係も亦良好ならん事を欲す。之が爲めには（＊球面星學に關する公式の證明は一切省略せり。余は一戸直藏著、高等天文學三版其他を參照せり）

正面の方向を如何に定むべきか、コハ第十一章に改めて詳述すべし。（つゞく）

× × ×



亞米利加の都市計畫（六）

ウオルター・デイ・ムウデイ著
Y生譯

商業學校は一九〇八年に組織せられたので、その設立には商業家商業會議所の役員、イリノイスのケルチフイルドの公立會計學協會、市俄古工業クラブが大學と協力した。ジョセフ・シャフナー氏は此等の協力を成り立たしむる上に於て多大なる盡力をした。卒業生を雇ふ可き、商業家が必要としてゐる、時代に適する、生きた實際的の卒業生を出すために、學級が各週五回、夕方に開かれつゝある。そこに教授せられつゝある學課をあぐれば、會計學、商業法、經濟學、私有、團體の財政學、投資學、商業工場の組織學、管理學、外國貿易學、事務心理學、運輸學、保險學、英語及外國語がある。若し一週間四回夕に開かるゝ學課を三年間完全に卒へるならば、その報酬として卒業免狀を與へられる。此三年間學校に熱中した者には、商業管理學得業士（バチエラ・ヴ井ジネス・ア

ドミニストレーション）なる稱號を附與せられる。

圖書館には十六萬八千八百一冊の書物、十三萬四千九百七十三冊のパムフレットを含んでゐる。

醫學校の圖書館は參考書辭書、一般に行はれてゐる雜誌、醫術、外科術の組織の凡てを含み全部で二萬冊に達してゐる。藥劑學校は價値ある該學に關する方面の參考書とパムフレット二萬五千冊に達してゐる。凡ての根本的化學、藥劑學の刊行物は、凡てあつめられてゐる。

セオドル・メンデスの名譽のために名づけられたるメンデス圖書館と齒科學校の讀書室は、三千冊の齒科術と整正術に關する書物を集めてゐる又辭典と百科全書と英文の齒科方面に關する刊行物を供給してゐて、その冊數一萬六千冊に及んでゐる。工藝カレッヂの博物館には、數千の稀な價値ある標本を集めてゐる。之れを部門に分かてば人類學、植物學、地質學、鑛物學、動物學である。勿論醫學校、藥劑學校、齒科學校にも又博物館はある。

市俄古には特別なる學校が尠くないが、その中で最も敎育的感化の範圍の廣大なのは、ラ・サルレ延長大學（エキステンション・ユニバーシチー）である。該通信敎授は世界的に知られてゐるので、一九〇九年に創始せられて以來、全部分にわたり世界中に於て同通信敎授を受け、學生として姓名を登錄せられたる者の數殆ど十六萬人に達してゐる。一九一九年にはその生徒數五万人、而して合衆國外に於ける學生數は殆と二千人に過ぎなかつた。研究の課程は職業と天職とが、一致する方法に組み立てゝ敎授せられてゐる。各部門ともに人が天職なり又は職業なりに從事ずるの時之れに從事して實際に役立つ樣に訓練せられるのである。特別な敎科書、又敎授の方式も、此敎育上の訓練の方針に從つてゐる。之れ等の敎科書は中等學校カレッヂ・ユニバーシチーに於て廣く採用せられてゐるものと同一の書物である。該通信敎授の課目をあぐれば、計算學、法律學、事務管理學、合衆國各州に通ずるの商業、運輸學、銀行學、財政學、事務上の書翰學、外國貿易學、商業スペイン語、その他各方面の職業に關するの學課を含んで

居る。又夜學校も下町の方面、學校の分校に於て開かれ、正則に敎育を受け得ぬ境遇にある人々のために便宜を計つてある。本大學を一團と觀ればその生徒は殆ど凡ての國民性、人種、人種的の一群を形ち造つてゐる。此通信敎授の方法による、大人の敎育をなしつゝあるの思想を要約すれば、大學によつてしは〳〵引用せられる、喊聲によつて說明することが出來る。曰く『人が學問を中止する時は、その人の成長は中止し、かくしてその人の構成的の働もやむのである』と。

凡ての大都市は多少に拘らず、カレッヂ若くは特別なる學校を備へてゐる。市俄古市も之れ等の都市と同樣に、寧ろ第一流の都市を凌駕するだけの敎育機關を備へてゐる。之れ等の敎育機關のことを詳細にあぐるならば、一卷の書物を之れに捧げねば足りぬ程であるが、こゝには主として學生階級に興味のある敎育機關の利便の方面を詳細に記述するよりも、寧ろ一般公衆の利益をはかる藝術科學上の特別の機關に就て詳しく述べる方がのぞましいことである。

市の敎育機關の中で特にこゝに記してある可きものはリンコルン公園にあるシカゴ・アカデミー・オフ・サイエンスである。同アカデミーには廿五萬個の標本を備へてゐる。特に地方博物學の標本を夥しく集めてゐるとに於て、又軟體動物の標本を完全に蒐集してゐるとに於て有名である。市の有名なる說敎者であるフランク・ダブルウ・ガンサウラス博士（譯者曰今は故人）の主宰するアルマウ學藝館は、一八九二年市俄古市のフキリップ・デイ・アルモウアによつて設立されたものである。該館の事業は一八九三年九月に始まつたので、最初公衆に向つて云び現はされた、該館の目的は以下の如くあつた。

目的は靑年に對し自由敎育の機會を與ふるにある。而して此福利は一切の階級に等しく及ぼんことを望んでゐる。この目標は廣義の博愛的なるにある。品性の發達に於ける一の要素として自特獨立の重要なるとを、深奧に實現しつゝ、設立者はこの目的の價値と學生の自重心とを高調する方法として、本館の與

ふる財政上の恩惠に制限を加へてゐる。本館は特殊學校ではない。併し本館の拂ふ教育上の負擔は（即ち自助の精神ある者を助けんと欲する）、設立者の如き生々たる精神、理事團、職員等の精神と調和するものである。

ロヨラ大學はゼスイツト協會の管理の下にある學校は如何なる教派に屬する人々にも、又男子婦人に拘らず開放されてあるが、併しカレッヂ正科及びハイ・スクールの過程は、男子學生にのみ限られてある。位置は北岸を背景とする廣濶な美はしい位置にある。

米國に於ける最も有名なる社會上の權威の一人たるグラハム・テイラー教授の主宰する、市俄古市民、博愛學校は一九〇九年に設立された。此學館は社會奉仕の新なる職業、實に廣い社會上、都市上の、一般的な重大な利益の發達をなさしむる中心となつた。

市俄古ヘブル學館は、一九〇三年の設立にかゝる目的は外國移住者と同樣に、本來の亞米利加人に對し社會的、教育的、文明的の中心を提供するにある人種、教派の差別を超越して、凡てを無差別に、市俄古の團體のために利益を計りつゝある。社會上の害惡を療治するよりも、それに至るものを阻止するが、その目的である。猶太教範學校は貧しくしてしかも有望なる青年子弟に對し、その教派を問はず、教育を授くるにある。

家政學、家政術學校は、アーモーア學館に於て男女共學の廢止せられたるとき、これを補ふためにピー・デイ・アーモーア夫人によつて設立された學校の經濟は授業料によつて維持せられてゐるが又寄贈金をもつて補はれてゐる。學科は料理、家庭養育學、攝養法、家政經濟學、裁縫、婦人小間物類等に分れてゐる。課業は春秋冬の正規學課期があり、これに短期の夏期の二學期がある。實驗室、食料品織物博物館、新らしき訓練臺所等は、同校の所有する價値ある設備である。

又法律學を研究せんと欲する者にとつても、市は他に比類のない位置を占めてゐる。合衆國の何の都市よりも當市に於て重大なる訴訟が多いと言はれてゐる。又市には市、郡、州の三個の裁判所

が置かれてある。而してインデイヤナ、イリノイス、ウキスコンシンの三州の事件を裁決する聯合裁判所（Federalcicuit of Appeals）とイリノイス州裁判所の三個の支部を含む、聯州政廳がある。市俄古法律院は（その會員たる裁判所書記のために開かれてゐる）六萬四千卷の書籍を有する圖書館を有し、又市俄古辯護士協會の圖書館は、數種の法律學校の圖書館と等しく、一切の重要なる法律上の報告に接するの利便が開かれてゐる。書は職業に從事し、夜法律學校に通つてゐる人々に對し便宜が開かれてゐる。

市俄古法律學校は、市俄古法律ケント・カレッヂ、市俄古法律學校、イリノイス法律カレッヂ、バウル大學の法律部、ジョンアーシャル法律學校、市俄古大學の法律學校、之れ等の學校にある圖書館を集むるならば、書物の總數二十萬冊に達する。

市は又多年の間米國に於て、最も人望のある醫學教育の中心であるとの評判を得てゐる。市に於ける醫學生の數をあぐるならば、何の他の都市に於けるそれよりも多いのである。此人望を得た理由の一は實際上の訓練を與ふる病院、醫學カレッヂが郡立病院の周圍にあることに源因して居らうと思はれる。四個の群の中、こゝには多くの大なるカレッヂ、實地訓練を與ふる病院がある。而して學生は實驗室病室臨床講義の空氣の中にあつて研究することが出來る。此中心地は下町から二哩離れてゐる。市には八十六個の病院と廿二個の調劑所とがある。

市俄古醫學校はベンネツト醫學カレッヂ、市俄古内科外科カレッヂ、ラッシュ醫學カレッヂ、ハーネマン醫學カレッヂ、ノースウエスタン大學醫學校、デエンナー醫學カレッヂ、市俄古及びイリノイスの研究科醫學校、市俄古耳鼻咽喉科カレッヂ等がある。加ふるに醫學校や大病院の研究科にては（例へばメアシーやアウガスタナ等の）一年間を通じ毎日公開の臨床講義をなし、幾千といふ醫者がこゝに來る。

右の如き醫學校の外に、種々の無藥治療を教ふる建物を有してゐる。醫學カレッヂの圖書館はい

はゝ延長醫學校の如きものである。ラッシュ醫學カレッヂのみにても、その圖書館の書物總數二萬五千冊を有してゐる。

一九一六年遲く、總敎育局及びロックフエラー財團とは、市俄古大學と聯絡ある醫學校とその實驗室を設けるために、各々百萬弗づゝをこれに充當することを言明した。但し之れには右の外に三百卅萬弗を募集しなければならぬ條件であつた。此募集額の中既に七十萬弗は寄附契約があるに至つてゐる。ラッシュ醫學カレッヂとプレスビテリアン病院とは、此新なる醫術の中心の一部分となつてゐる。此計畫は最高の權威ある醫術の敎授、設備最も有効に完備せる研究の中心を備ふと言はれてゐる。而して此計畫發表さるや市俄古市のジュリアスローゼンソールド氏夫妻は、直刻此新なる醫學の建物に對して五十萬弗の寄附契約をした。その後エフ・エイチ・ラウソン夫妻はその基金に對し、卅萬弗を附加した。

市の神學校は右の醫學校や法律學校と等しく、同樣の權威を有してゐる。その中最も有名なのは市俄古神學校、ガーレット聖書學院、マコミック神學校、聖ヴキクトー及びムーデイ聖書學院、福音ルーテル敎會の神學校、市俄古大學神學院、ウエスターン神學校等がある。夫等の學校は何も著しく秀れた圖書館をもつてゐる。その總數十七萬五千冊を有してゐる。

高等の程度の事務の訓練を與ふるの設備は、合衆國に於て甚だ尠い。

重要なる位置におかれて、その責任を完全に果し得る資格ある人物の欠乏せるとは、殆ど凡ての大なる雇主の出會ふ處である。

市の『敎育上の機會』なる雜誌は以下の如く言つてゐる。

獨逸に於ては商業上の敎育は著しく進歩してゐる。而して(戰前)獨逸の商業貿易の大なる伸長を來してゐたのは、主として獨逸の商業敎育が徹底し、秀れてゐたとに歸せねばならぬ。英國も又急速に夜學校の組織を發達させて商業敎育の分野に進入して來た。

市俄古市に於ては此類の商業學校は二つある。一はノースウエスターン大學に於て、他は市俄古大學の中にある。その外に簿記、速記術、タイプライター、商業數學、商業法等の訓練を與へてゐる、私立學校がある、補習學校では又た編法英語、法制に就て敎へてゐる。此種類の重要なる學校は十二個以上ある。

市に於ける社會上の施設は徹底的に設備せられ著しい程度の進歩を見せてゐる社會植民の最も顯れたにものは、世界的に著名であるハル・ハウスであつて、そこに住しその長となつてゐる人はこれ又世界的に著名である、ヂエーン・アダムスその人である。ハル・ハウスは家政上の方面に關する敎育又或商業の研究をなすに訓練を與へてゐる外に、多くの工業方面の研究、一般にわたる音樂、各方面の技藝を授けてゐる。數種の圖書館と聯絡をつけ又た二百五十名の坐席を有する坐席を有してゐる。



ダニエル・ハドソン・バアルハンハム・一八四六年生一九一二年死、商業クラブの命の下に市俄古市計劃案を立てし人

これと等しい有名な社會植民事業は、アブラハム・リンコルン・センターである。その長は故ゼンキン・ロイド・ジョネスである。その附近に樣々の活動を起す中心となつてゐる。同植民部の基金十萬五千弗、その運用す

る費用二十萬弗になつてゐる。三千四千の人々が毎週同所に往來せる所を見ても、如何に多大の活動を同所が續けてゐる。

右の外廿九個の植民事業があつて、多少の相違はあつても、何れも完全なる設備又有用なる活動を續けてゐる。而してその大抵は善き圖書館をもつてゐる。ゲーヅ・ギル、エルム・ストリーツ、ノースウエスターン・ユニバーシチー社會植民部、市俄古ユニバーシチー社會植民部は中就最も重要である。

社會植民事業に勝る、より大なる世界的の事業はない。而して此事業と最も密接なる關係にあるものはキリスト敎青年會、女子キリスト敎青年會の事業である。卅七個の國民を包有してゐる市俄古市は、青年會事業によりて、最も好適の分野たる可く見ゆる。市の大都市協會（メトロポリタン・アッソシエーション）は、公平なる觀察者にはよし世界的でなくとも、合衆國に於ける同樣なる組織の中最も秀れたるものであらうと評價せられてゐる。市の青年會事業を、圖表的に記すならば、之の投資六百萬弗その建物の數十四個なるとにより、如何にその活動の大なるかゞ想像せられよう尤も尙ほ設けなければならぬ重要の位置に、設けてないのが十二箇所程はあるが、それでも市中を通じ最も重要なる位置には何處にも建てられてある。又郊外、下町、獨逸人、ポーランド人、ノルウエー人等の居住區にも支部を設けてゐる。又製造所、郵送所の區域にも支部を設けてゐる。又有色人專有のための建物もある。これに大なる貢獻をした人は、市の商業界の大指導者であり、博愛家たるジユリアス・ローゼングルド氏である。

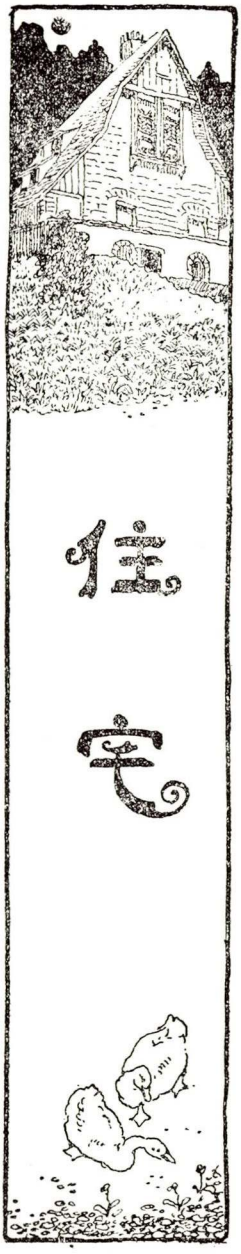
恐らく最も新しい又大望心をもつて企てられた支部は、ループ區域の端に建てられた青年會ホテルである。該ホテルは千八百廿一個の部屋を有し一夜を卅仙若しくは六十仙で宿泊せしめる。かゝる類のホテルは世界に類がない。此ホテルは市の青年會の總主事たるエル・ウキバー・メッサー氏の考案になるものであつて、氏は數年前よりの計畫を夢みてゐた。地方より始めて此大都市に出て來た青年をして、暗黑の世界に接觸して躓かし

めない樣に、善き手の中に落ち、潔き環境に置かれ、快活な又精神を引き上げる氣圍氣の中に住はしむ可く、斬新なホテルを建てんものと描いてゐたのが實現したのである。世界に於ける如何なる意味の宗教もかゝる制度を有せぬが、かゝる類の開拓者として見なされてある米國の諸都市にかゝる建物を有し、歐州にも同樣の建物を設くる可き可能性を有してゐる。市俄古キリスト教青年會は凡ての緊急なる場合に、靜に注意深く控目に、これに應じてゐる。

市俄古キリスト教女子青年會は、市の第一流のホテルの區域の、數街區南に進んだ處の、ミシガン・アヴエニューに、廣くして都合好き建物を有してゐる。その建物は樣々の類の、委員會事業の本部になつてゐる。五箇の旅客係の事業では毎日委員が、各所のステーションにつめかけて、地方から都市に始めて出て來た、援助なき女子青年を保護するに努めてゐる。

凡そ三百の婦人部がこゝにある。その教育部では裁縫部、婦人小間物部、美手術部、結髪部、事務部、技藝部、料理部、體育部、聖書研究部等でそれ〴〵の學課を教へてゐる。教授法は實際的で忙しい女子青年の要求に應す可く設けられたのである。

又講演協會の企てゝゐる事業は、群衆の教育仲介機關として最も重要なるものである。三百の公立學校は何も講堂をもつてゐる。新築の建物の多くは、殊に立派な聽衆室を含んでゐる、そしてその坐席は千二百人から二千人に迄及んでゐる。全市にわたつて聯絡を有し、自由に公衆が使用し得る樣にし、そこにては時事問題、旅行その他多くの廣き問題はわたつて、講演がなされてある。



洛東「山科」の翠環裡に
瀟洒な姿態を現はせる
アッパートメント・ハウス
なにがし

□ 院線、絡東「山科」驛直下の、東南西に展開せる一大平野、翠巒に環らされて、今ならば青嵐に薫る長閑の境地、繪にでも書いたようなバンガローとコッテーヂの一小聚落を經營されてあることは、曾て本誌に紹介したところであつた。

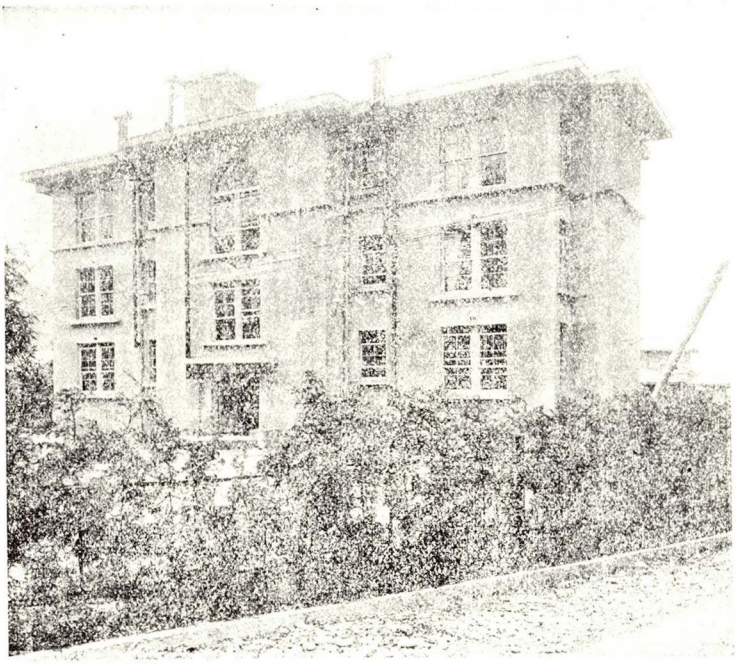
□ 其境地に、近來漸く出來上つた共同住宅（アッパートメントハウス）は、件の一小聚落が我邦としては最も新しい試みであつたと同時に、等しく最新な試みたるを失はない。殊に一營利會社の社員舍宅としては、最も先鞭を附けたる建築物であらう。

□ 斯の舍宅の經營者は曾て「日本絹布會社」と稱せられ、今「鐘紡山科工場」のものとなつてゐるのだが、其日本絹布會社の前專務名取和作氏の最も進取的な思想の反映が、我邦の工業會社としては創始的な件の諸施設となつたのである。

□ 昨今、アッパートメントハウスの建設が識者

間に要望的な問題として注意に上つてゐることは近來著しき傾向であると同時に、其要望の根底が、住宅難の緩和と住居生活の改善、即ち生活の要約に在ることは申す迄もない。

□　併し、住宅難の緩和といふ意義からしてならば、件のアッパートメントハウスは、地價の莫迦に廉い、地積の頗る廣濶なあの地域に、一戸やそこら建つたとて、それは大して意義を成さない様に思はれるが、事實は、社員――主として夫婦者に低廉な家賃で住居を供すると同時に、アッパート本來の性能たる處の「生活の要約」といふ事に由りて建設されたるものと察せらる。



洛東「山科」東海アッパートメントハウスの一

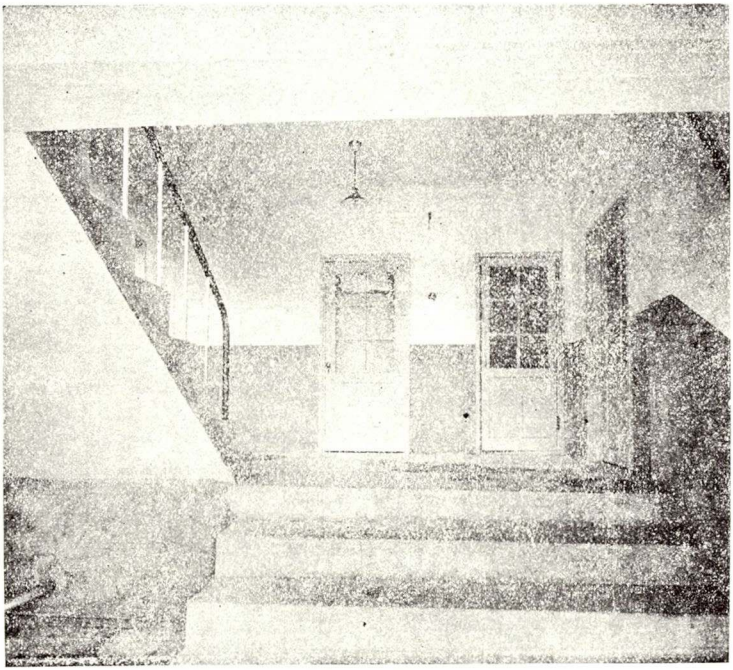
□　忌憚なく云はゝ同社の前專務名取氏の進取的な理想は、勿論一棟のアッパートメントハウスを以て措かず漸次該地境に鬱然たる一大田園都市を築造されるやうに想像されたが、會社が鐘紡に買收されて現時の「山科工場」と成りし以來、斯の企圖には一頓挫を來した様にも察せられる。隨つて、アッパートメントハウスの建設も現在のもの

を以て、先づ打ち切りだ、とは現に其幹部某氏が

記者に語る處であつた。

□　幷は兎も角として今建設されたるアッパートは、其何れにしろ一種の基本的な建築だと考へられるから、記者は、斯の種建築の參考にもと其觀た儘を此處に紹介することゝした。若しそれ其構造の細部に到つては、時恰も「目に青葉、山はとゝぎす、初鰹」てふ氣もすが々々しい今頃、山科の巒郷に一日の清遊を擅にされたら什麼ものかと思ふ。

□　其構造と設備をざツと紹介すれば、搆造は鐵筋と煉瓦の三階、一階毎に三戸の家庭を收容するようになつてゐるから、斯の一搆へに九家族を住はせることになる。現在は二家族と、獨身者で全部を塞げてゐるが、一戸は孰も、八疊の居間兼寢室に、六疊の茶の間兼食堂といふ風に、二た間であつて、其外には水洗式の便所に洗面所と臺所。風呂場も設ける筈であつたそうなが今は斯の一搆への直下に、アッパート專用の共同浴場を設けられてゐる。



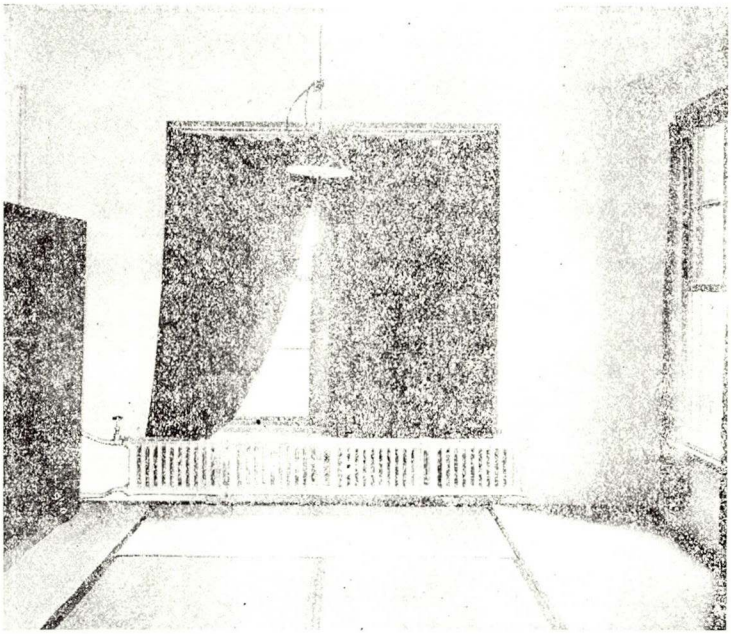
入口第一階　一見付入口は三戸分なり

（此の第一階段左側一隅に「アルコラーポライ」を取付け各室に送熱す）

□　給水は、附近の堀り抜きから、モーターで始終大水槽へ送られ清冽なる水を社宅一般

の配管を通じて供給されてゐる。若しそれ煖房設備に到つては、近來頗る輕便な裝置と稱へられてゐる例のアルコラーボイラを一階入口の一隅に取り付け、各室にラジエーターを裝置してあるから、煖房には先づ申分無しである。

□　只多少な遺憾を感ずる事は、各戸の炊事が其燃料を共同的に獲られない一事である。差當り電氣若くは瓦斯であるが、未だ戸數の少い現狀としては、態々電熱を送り或は瓦斯を拵へる譯には參るまい。さりとて、附近より其供給を受くる便宜の無い關係から、今は餘議ない次第である。



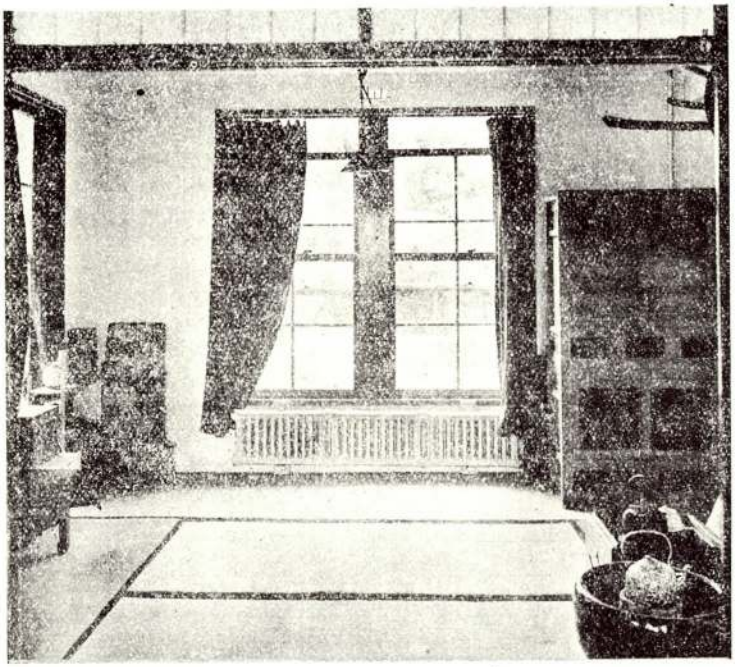
表の間

□　何分明け放しと、餘計な掃除手間と、一人々々が火桶に噛り付きの割據生活、其他曰く何と、僅に差し向ひ生活又は精々子供一人を加へた位ひな生活に生活の手續と樣式を重複して、無駄な暇と金を費した從來の住居生活が、アッパート住ひで整理され要約される事となるのだから、斯の位ひ便宜で而も合理的な住居生活はない。

□　殊に、鍵一つで、一家族が擧つて外出も出來れば、行樂も出來るのだから、其生活に及ぼす影響も種々な點に於

て少なからざる事と想はれる。アッパートメント・ハウスの問題は、地價や地積の關係が必ずしも其中心ではなく、却つて斯ういふ生活の簡約といふ處に存するのである、と記者は信ずる。

□　斯く出來上つた工費は、延べにして、約貳百圓との事である。費額の關係からでも、生活改善の一端としても、そして、都會地又は其附近の如き地積の關係からしても、是からはアッパートメントハウスの研究と實現が我建築界に於る主要問題の一つとなるであらう。



□　尙ほ、申し後れたが洗濯物の如きは、比較的廣いあの屋上の露臺で水栓一つ捻れば自由に給水され、共同洗濯場とでもいふような設備に成つてゐる。

□　電にそれ許でなく共同納涼臺にも成り、又明の夜、其アッパート居住者が集つて、心の行くまで語り聞す一種の共同「談話室」とも成り、其他、共同といふ方面からの利用の道は幾等もある。

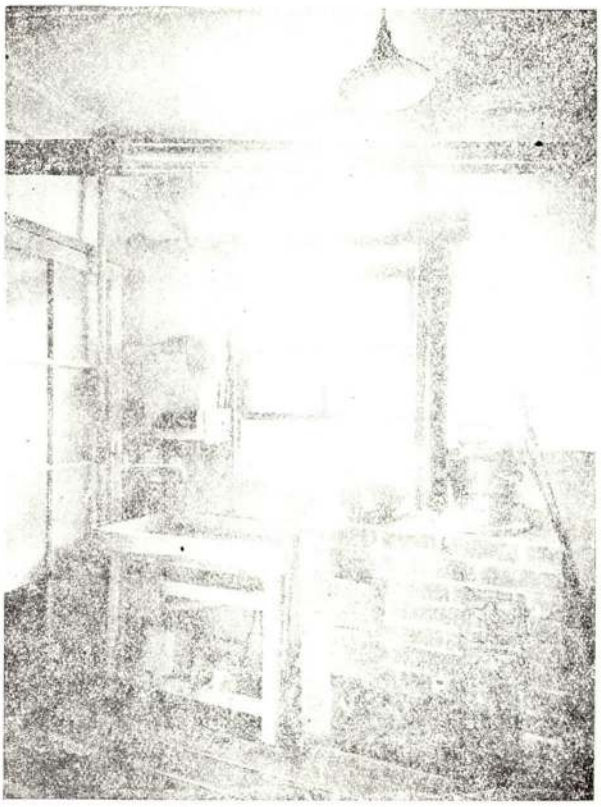
□　由來、制限的な、そして、頗る排他的な傾向に染める日本人の生活が、アッパートの奥ようにに、生活の或點を共同的に又は共通的に營

む、といふ關係からも氣分を洗練され或は訓練される影響をも有つであらう。

□　斯ういふ意義からしても、成るべく、從來の長屋建築から、斯るアッパートメントハウス建築に轉向して斯の種の建築が段々起つて欲しい。

□　聞けば、或向きでもアッパートメントハウスを主とする住宅經營の一會社が出來。現に其設計中だとの事であるが、歡迎せざるを得ない。

□　最後に、便所と臺所に就いて附け加へたいのであるが、便所の水洗式になつてゐる事は前に誌した通りである。斯の水洗式は單り斯のアッパートメントハウス許りでなく、それ等社宅一帶皆なそれであるから、パイプを通じて、中央のタンクへ流されるようになつてゐるが、遠に郊外面も廣濶な地域を占めてゐる事とて、市街地に頗る下水關係との面倒な問題のないのが幸ひである。

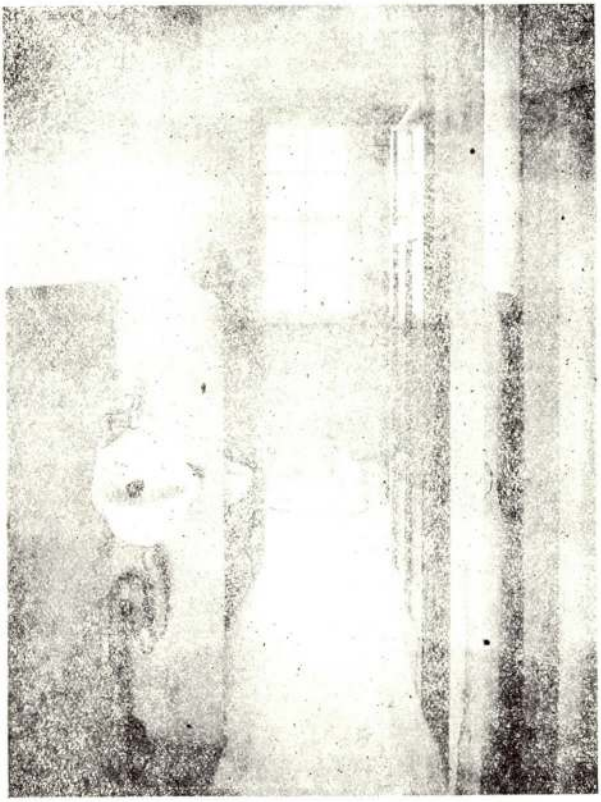


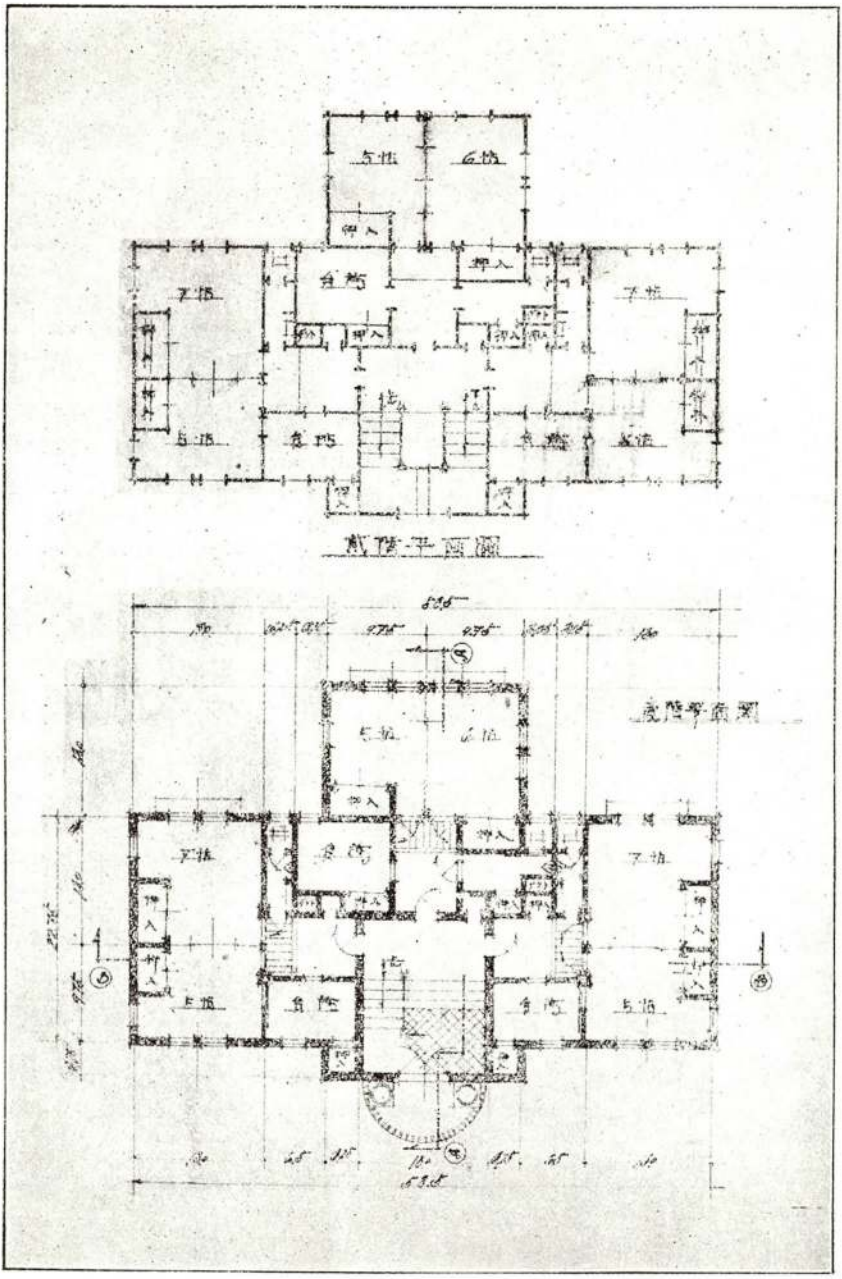
炊事場

□　住所に就いても前にちッつと誌した通りだが、寫眞で見る通り、普通の日本式臺所と何の異つた處もないのは、奈何にもアッパート式でないようだが、是は今の處、燃料關係からして、當分是で行くより

致方はあるまいと思ふ。何れ適當に燃料の共合的供給を得るようになれば、其處に多少な改造を見ると信ずる。斯麼事からしても、日本の電價が莫迦に高く付くので我等の生活も電化されない事を遺憾に思ふ。スイッチ一つで、何も彼も熱を與へ得るよう而も大概な家庭で用ひられるようになつたらば、アッパートメントハウスの樣式も、亦一段と進歩味を見るであらう。

水洗式便所







住宅と保健の關係

——大阪市に於ける細民階級住宅の現狀と保健狀態——（下）

三　太　郎

家屋構造及其他の狀態

家屋構造の狀態は、前號に於て概要の說明を濟ましたり要するに、該調査域内に於ける家屋は、所謂細民階級住宅の常態として、甚だ狹隘なる道路其ものに間地を見るの外は、小屋比周密團を成して、宛然蜂窩の如し。而して、それ等の全部は、二階建にして、建坪僅に五、六坪を出でざるもの其多分を占め、一戸平均五坪半に過ぎざると共に、其床高一尺二寸以下のもの三十三%、一尺五寸のもの四十五%一尺八寸のもの三%にして床上より天井迄の高さ即ち換氣宿積に隨つて其居住の保健に至密の關係を有する斯の種天井の高度は、七尺五寸乃至八尺のもの最も多く、二階は其の高さ大約七尺乃至七尺五寸なりとす。而して、採光及び換氣の狀態は、之を大數上より觀れば、孰も甚だ不完全なるもの多く、薄暗き室内に密集混住する者其大部を占む。即ち、之を一人宛平均疊數に觀るも、一疊以下のもの十二%、一

疊半以下のもの十二%、二疊以下のもの九%なるに觀ば、蓋し、思ひ半に過ぐるものあるべし。

斯くの如く家屋の構造それ自體が頗る非衛生的なるに止まらず、其周圍に於ける諸般の狀態は、亦一層斯る傾向を甚だしからしむるものあり。即ち、便所の如きは、各自の專用に屬せるもの比較的少くして、本調戸數九十七戸、二百九世帶、人口七百二十二に對し、僅に二十七戸の專用便所を有するの外は、凡て共同便所にして、而も、それ等家屋の內外は、食物の屑滓、塵芥等によりて常に不潔に、軒先道路の狹隘なるに因る日光直射不完全なると相俟つて、土地亦常に濕潤なり。

保健上に影響せる事象

以上前號以來、家屋の構造を主として說述せる保健上の關係は、現に如何なる事象發現し在るや蓋し次で說明すべき順序に屬するも、只此處に、其前提としての考慮を要すべき事は、件の住居に現はれたる健康上の諸多なる事象は、其住家と周圍の狀況などを以て必すしも、亦が唯一の由因若くは條件と做し能はざること是なり。即ち、それ等諸種の事件の外例へば職業、家族關係、性行、社會上の關係、或は精神的敎養等、恐らくは到底限定し得ざる諸般の關係こそ、保健上に現はれたる綜合的の唯一の原因たるべし。されど、家屋の構造と地域の狀況は直接肉體は及ぼす原因として、最も主要なる位地を有することは、殆んど爭ひなき事實なるを信ず。仍て、吾人は、以下其現象を叙說するに當り、先づ、疾病關係より始ることとせむ。

綜合的結果に據れば、件の住民七百二十二名中五百八十五名を檢診せる成績報告に就いて觀るに「トラホーム」患者を除く外の罹病者は二百二名にして、即ち、對被檢診人員三十四・五%を占め、而も其病症の多くは呼吸器疾患殊に肺結核消化器系疾患、其他花柳病者亦尠からざるなり。而して呼吸器疾患中、急性及慢性氣管支炎は、主として四十歲以上の高齡者に多く、肺結核は殊に七歲乃至二十歲の幼、青年者に多く、即ち、物質的にも精神的にも生產力を有し、又は其將來ある者の多くが斯かる狀態に在る事は、最も注意すべき現象なり。今、參考として左表を揭ぐ。

第三十一　檢査人員ニ對スル有病者百分率

性體別	檢査人員	罹病者數	檢査人員に對する罹病者數(%)	內譯 就床患者	就床せざるも靜養中のもの	職業に從事せるもの 脚氣	內臟疾患	其他のもの
男	二九八	一〇四	三四・九〇		(4)	一・三四	(8) 二・六八	(34) 一一・四〇	(58) 一九・四六
女	二八七	九八	三四・一五	(1)	〇・三四	(1) 〇・三四	(5) 一・七四	(27) 九・四〇	(64) 三・二元
計	五八五	二〇三	三四・五三	(1)	〇・一七	(5) 〇・八五	(13) 二・二三	一〇・四一	(122) 二〇・八五

備考　(1) 就床者一名は感冒患者なり　(2) (　) 內の數字は患者數

第三十二　主ナル疾病ノ罹病歩合

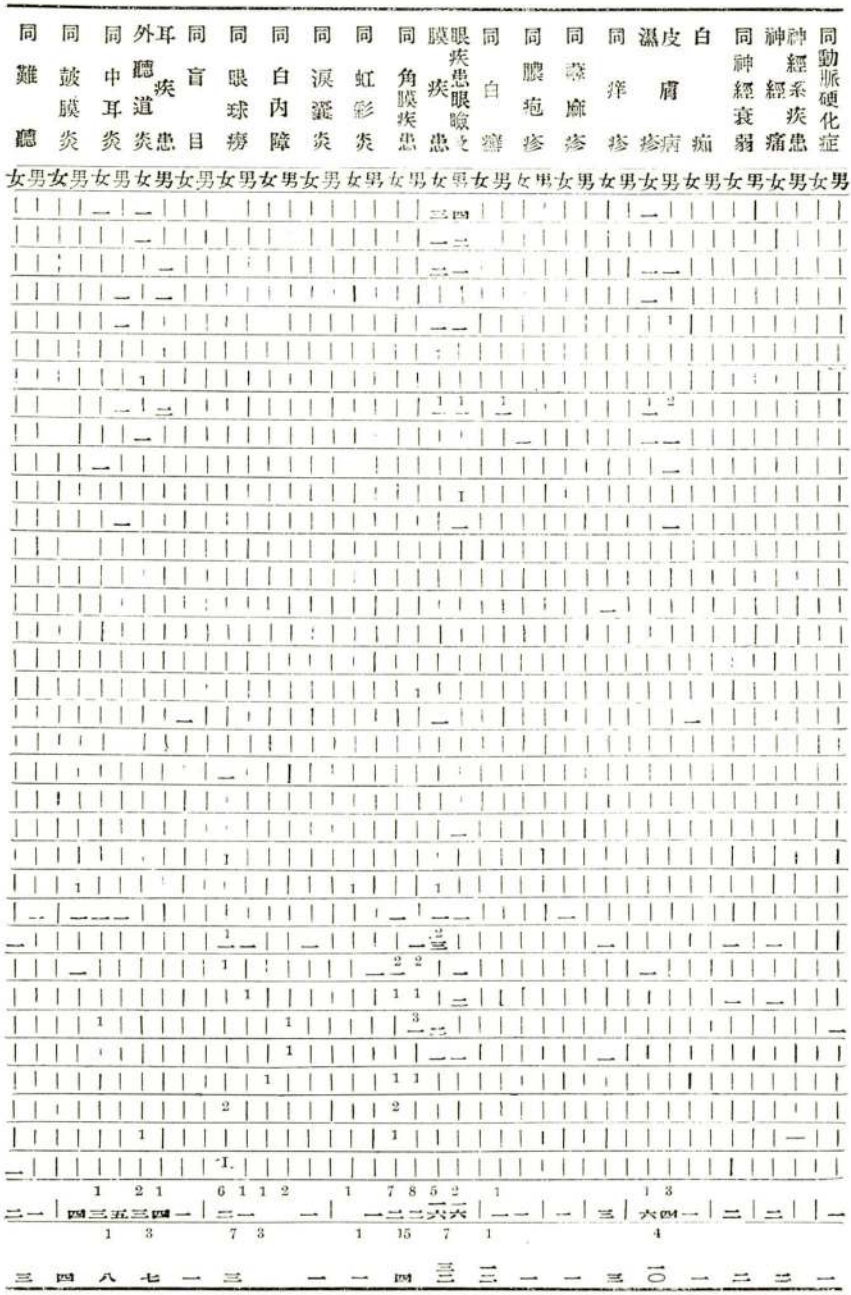
病類別	體性別	患者數 男	女	計	檢査總人員に對する%
脚氣及乳兒脚氣	男	八		一三	一・八〇
	女	五			
花柳病	男	三		六	〇・八三
	女	三			
肺結核	男	一二		二〇	二・七七
	女	八			
腺病質	男	九		一八	二・四九
	女	九			
肋膜炎	男	二		三	〇・四一
	女	一			
呼吸器疾患	男	二		五	〇・六九
	女	三			
胃腸病	男	一四		二四	三・三二
	女	一〇			

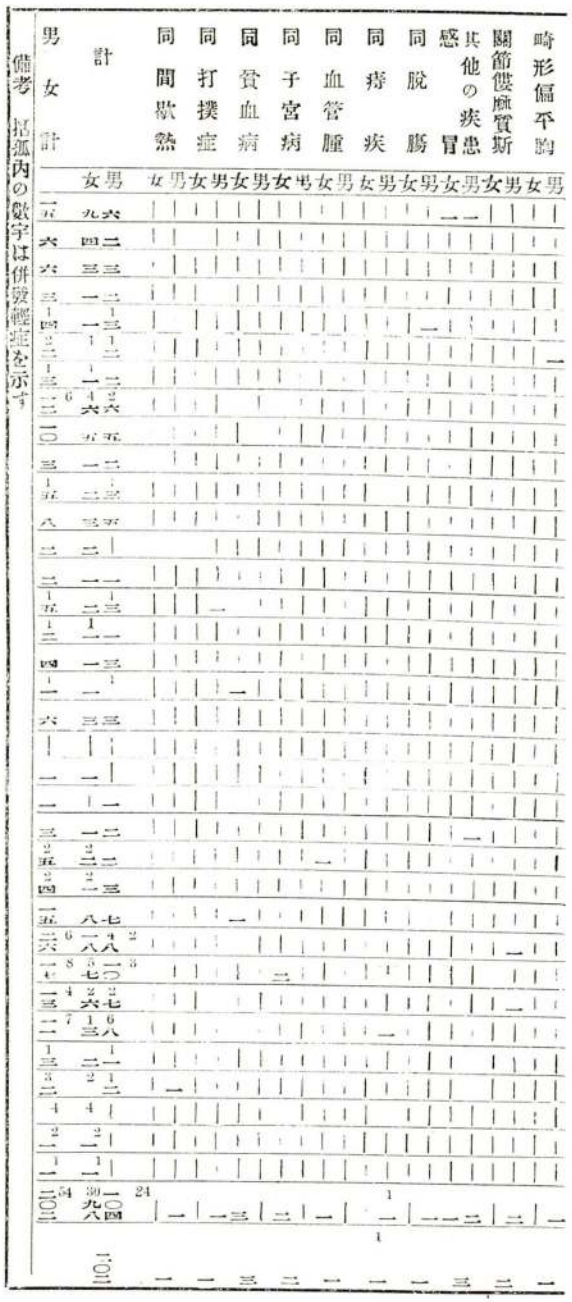
病類別	體性別	患者數 男	女	計	檢査總人員に對する%
扁桃腺肥大	男	一三		四	〇・五五
	女	一			
血行器疾患	男	四		七	〇・九六
	女	三			
皮膚疾患	男	一一		一六	二・二一
	女	五			
耳疾患	男	一四		二二	三・〇四
	女	八			
トラホーム以外眼疾患	男	二二		四二	五・八一
	女	二〇			
感冒	男	二		三	〇・四一
	女	一			
貧血病	男	三		三	〇・四一
	女				

備考　總檢査人員七百二十二人なりとす

第三十三　體格檢查當時に於ける疾病及年齡別

年齡別	病類別	脚氣及乳兒脚氣	花柳病徽毒	同淋疾	結核肺結核	同肺炎加答兒	腺病質	癩病	呼吸器疾患慢性氣管支炎	同肋膜炎	同喘息	消化器疾患同小兒肥大	消化不良症	局慢性胃炎	同胃痙攣	同腸炎	血行器疾患心臟瓣膜病	計	男女計
體別	性別	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女	男 女
1		一																	
2														二					
3																			
4																			
5																			
6																一			
7						一 一								一					
8						一 一	三												
9							三 一					一				一			
10						一													
11						一 一	一 二												
12					一		二 一						一	一					
13							二												
14							一 一												
15						一	一 一												
16	一						一 一												
17														一		一			
18																			
19	一						一												
20																			
21																			
22							一												
23	一																		
25—30		一								一				一 一		一			
30—35							一 一							一					
35—40		一					一							一 一					
40—45	一	一					一			一		一	一	四 二					
45—50		三		一					一 一					一 二			一		
50—55		一 二						一	一					一 一					
55—60		一									一			一		一	一		
60—65																			
65—70									一										
70—75																			
80—85																一			
85—90																			
計		一 三 五 八	一 三 三	一	三	一 九 九 八 九	一	一	一 三 三	一 一 二	一	一 三	一	五 一 三	一	一 二 一	一		
男女計		三	六		三	一 八	一 七	一	四	三	一	四	三	一 七	一	三	六		
計		一		一		一						一				二	一		


同動脈硬化症
神經系疾患
神經痛
同神經衰弱
白癜
皮膚病
濕疹
痒疹
同蕁麻疹
同膿疱疹
同白癬
眼瞼疾患
眼疾患
同角膜疾患
同虹彩炎
同涙嚢炎
同白内障
同眼球疼
同盲目
耳疾患
外聽道炎
同中耳炎
同皷膜炎
同聾唖
男 女 男 女 男 女



死亡率より觀たる保健關係

大正九年に於ける死亡率は、大阪市の對現住人口千の二十二(・二)餘に對して、實に四十一・五なる高率を占む。而して、其死因の主もなるものは、呼吸器系疾患及び消化器系疾患にして、血行器疾患及腦膜炎、脚氣等之に亞げり。之を年齡別の%に觀むか、一歲未滿の幼兒を第一位として、二十歲以上乃至三十歲未滿を第二位として、十五歲以十二十歲未滿が其第三位を占め、之等によつて%の主要部分を占めあるの現象は、果して何ものを說明せるか、吾人願て轉た寒心を禁じ得ざるなり。吾人は、讀者各位が、左表によつて、須らく這箇の消息を抽象せられんことを望む。

第四十七　現住人口ニ對スル一般死亡者

慣性年齢割合（大正九年）

種別／年齢別	現住人口			死亡數			現住人口に對する死亡千分率		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
一歳未滿	一〇、一三三	九、七一六	一九、八四九	一、一七三	一、〇一〇	二、一八三	一一五、〇	一〇三、九	一〇九、九
一歳以上二歳未滿	九、七一六	九、一九八	一八、九一四	二、一八三	一、〇一〇	三、一九三	二二四、九	一一〇、九	一六九、一
二歳以上三歳未滿	八、一九八	八、一四八	一六、三四六	一、一九三	一、〇一〇	二、二〇三	一四六、一	一二四、〇	一三五、〇
三歳以上四歳未滿	七、一四八	七、一三四	一四、二八二	一、一〇三	一、〇一〇	二、一一三	一五四、九	一四一、〇	一四八、〇
四歳以上五歳未滿	六、一三四	六、一〇三	一二、二三七	一、〇一〇	一、〇一〇	二、〇二〇	一六五、〇	一六五、〇	一六五、〇
五歳以上十歳未滿	五、一〇三	五、〇一二	一〇、一一五	一、〇一〇	一、〇一〇	二、〇二〇	一九八、〇	一九八、〇	一九八、〇
十歳以上十五歳未滿	四、〇一二	四、〇一二	八、〇二四	一、〇一〇	一、〇一〇	二、〇二〇	二五二、〇	二五二、〇	二五二、〇
十五歳以上二十歳未滿	三、〇一二	三、〇一二	六、〇二四	一、〇一〇	一、〇一〇	二、〇二〇	三三六、〇	三三六、〇	三三六、〇
二十歳以上二十五歳未滿	二、〇一二	二、〇一二	四、〇二四	一、〇一〇	一、〇一〇	二、〇二〇	五〇五、〇	五〇五、〇	五〇五、〇
二十五歳以上三十歳未滿	二、〇一二	二、〇一二	四、〇二四	一、〇一〇	一、〇一〇	二、〇二〇	五〇五、〇	五〇五、〇	五〇五、〇
三十歳以上三十五歳未滿	二、〇一二	二、〇一二	四、〇二四	一、〇一〇	一、〇一〇	二、〇二〇	五〇五、〇	五〇五、〇	五〇五、〇
三十五歳以上四十歳未滿	二、〇一二	二、〇一二	四、〇二四	一、〇一〇	一、〇一〇	二、〇二〇	五〇五、〇	五〇五、〇	五〇五、〇
四十歳以上四十五歳未滿	二、〇一二	二、〇一二	四、〇二四	一、〇一〇	一、〇一〇	二、〇二〇	五〇五、〇	五〇五、〇	五〇五、〇
四十五歳以上五十歳未滿	二、〇一二	二、〇一二	四、〇二四	一、〇一〇	一、〇一〇	二、〇二〇	五〇五、〇	五〇五、〇	五〇五、〇
五十歳以上五十五歳未滿	二、〇一二	二、〇一二	四、〇二四	一、〇一〇	一、〇一〇	二、〇二〇	五〇五、〇	五〇五、〇	五〇五、〇
五十五歳以上六十歳未滿	二、〇一二	二、〇一二	四、〇二四	一、〇一〇	一、〇一〇	二、〇二〇	五〇五、〇	五〇五、〇	五〇五、〇
六十歳以上	一、八一二	一、八一二	三、六二四	一、〇一〇	一、〇一〇	二、〇二〇	五五六、〇	五五六、〇	五五六、〇
計	六〇、九九七	五七、三九八	一一八、三九五	一四、九〇〇	一二、七七〇	二七、六七〇	二四六、九七	二二三、一	二三二、七

第四十八　五ヶ年間死亡者中主要死因

病名	死亡總數に對する%	各疾患死亡數	内譯 五歳以上	内譯 二歳以上五歳以下	内譯 乳兒
脚氣	五、六九	七六三	三五	一	三一
肺結核	四、八七				
癆	二、四三				
結核性疾患	八、一一				
胃腸ノ病	三、四七	四六、九九七	二、三八	一、三八五	
下痢	一、四一	一六	一		
其他消化器疾患	一二、九〇	一七〇	一一	一	一
腦充血	六、四五	八四	五	一	一
腦膜炎	二、七一	三四	二		
氣管支炎	三、二六	四二	三		
先天性弱質	三、一二	四二	三		
腹膜炎	四、〇八	五四	四		
腎臟炎及ブライト氏病	二、〇四	二七	二		
痲疹	一、一三	一五	一		
百日咳	一、〇二	一三	一		
流行性感冒	四、〇八	五四	四		
傳染病	三、一一	四一	三		
老衰	四、〇二	五一	四		
其他	二四、一二	三一五	三五	一	一



東京建築たより

文學士　鵬心生

□東京では、平和博覽倉が不景氣だとは云ひながら相當に地方の人も上京させ、兎に角話題に上つてゐる其の中でも、博覽會の建築と文化村住宅とは評判になつてゐる。博覽會の建築は、主として青年建築家が自由に腕を振つたので、從來の博覽會とは違つた興味あるものが出來た。

□普通の人にはいくらか突飛のやうに見えるであらうが、博覽會の如き一時的の建築としては、頗る面白いと思ふ。博覽會の建築は、それ自身が博覽會の出品たるべき性質のものである。各館の建築は、各館内の出品と同樣に、建築の出品であらねばならぬ。

□今回の博覽會建築の中には出來不出來もあり見る人によつて種々の批評もあらうが、大體に於て私は面白いと思ふ。樣式が新奇の上に、材料が粗惡なので、變な感じを抱く人もある樣であるが樣式を抽象して考へると、中々面白い。

□文化村の住宅は、各館の建築と違つて、全く建

築の出品である。最初地割の時分に見た時には、第一會場の一隅で、比較的人の眼に觸れ難い悪い場所だと思つたが、開會してみると非常な人氣をよんでゐる。これは往宅の實物が十四戸も揃つて出品されると云ふ事が、破天荒の事であるからでもあるが、一方では時代の要求の爲めで、如何に生活改善が必要に迫られてゐるかゞわかるのである。

□文化村の住宅は、何れも所謂改良住宅であるが多くは洋風を主とし、之れに多少の日本風を加味したものである。「座る」か「腰掛ける」かと云ふ事は、生活改善の一大分岐點であるが、公共生活に於いては、既に「腰掛ける」事が數十年來實行されてゐて、問題にはならない。私的生活即ち住宅に於いて如何にするか――これも議論としては「腰掛ける」方に決定してゐると云つても差支ないと思ふ。併し此の方はまだ〳〵あまり多く實行されてゐない。

□應接間、書齋の如きは隨分實行されてゐるが、食堂、居間の如きは未だ行はれてゐない。併しこれも追々實行される傾向にある事は疑ひない。即ち私的生活に於いても「腰掛ける」方になりつゝあるのである。「座る」ことから「腰掛ける」ことに移るのは、必しも住宅を變へなくても出來る。日本座敷に敷物を敷いて、椅子、テーブルを置けばよいのである。最近、東京の三越では、日本室向の洋式家具陳列を試みたが、其の賣行は頗る多かつた。これは日本間でもつて、「座はる」事から「腰掛ける」事に移りつゝある證據である。

□この場合に困る事は、床の間や障子や椽側である。尤も障子は、場所によつては、除いてもいゝし、椽側は敷物を敷いて部屋の擴張として使つてもいゝが、床の間には困る。元來座つて見るべきもので、腰掛けとなると、眼との位置が變になつて來る。又鴨居や長押、小壁、襖間あたりも多少工合が悪い。どうしても「腰掛ける」には、住宅を根本に改造する必要がある。

□この必要に應じた住宅の見本が文化村である。文化村が人氣に投じたのは蓋し當然である。文化村の住宅をみると、誰れでもあんな住宅に住んで

みたくなる。若い者は殊更である。而して文化村が評判になつてゐる間に、一方ではどし〳〵新しく建てられつゝある。誠に東京の山の手線の電車で、市の外輪を半週してみると、洋風住宅の著しく増加してゐる事に驚くであらう。

□生活改善の根抵が住に在るとしたならば、今や根抵から生活改善が實現されつゝあるといふ事が出來る。一方で小兒の洋服が非常な勢で流行し、衣の方が小兒から改善されつゝある時、住の改善も徐に行はれつゝあるのであるから、兩者相俟つて生活改善が實現されてゆくのである。

□平和博の各館の建築と、文化村の住宅とが面白いのに反して、建築館の内容は、如何にも名に副はないのに驚かれる。あんな内容では、建築館と云ふ名を與へるさへ、恥かしい事である。建築館に出品すべきものが、現任の我が國にない事は決してあるまい。あれは當事者の手ぬかりか、出品者の誤解か、とにかくみつともないものである。

（五月十五日夜）

夏の山

たゞ

峰丸く

なりにけり

大阪の外廓を歩して（中）

齋藤憲太郎

五

不足を云へば切りのない事であるが、前記の門などは最初から無用にして、此棟の長屋はヤハリ飽まで實用的に住めるやうに、ズカと考ふべきであつた。即ち前は格子戸で澤山である。格子を開けて踏んごみの土間、そこから直ちに座敷に上ればいゝ、苦しがつて役にも立たぬ前庭を取つたり玄關を置いたりする必要はないのである。私はそれよりもこの新開の住宅地に來て、第一番に『これはいけない』と感じた事は、この市設長屋が悉く東西向きに建てられてある事だつた。東西向の家は冬は寒く、夏は西日で苦しめられる。住宅としては、ヤハリ南北向が光線の工合が一等よく、冬はぞつさり射しこんで、夏は朝日が入つて夕日が入らない、然るに鶴町の住宅は悉く東西向である。元來の地勢や道路の工合で何うする事も出來ない場所ならば知らぬ事、斯う云ふ原ツぱの中で斯う云ふ地割をしたのは、何ういふものだらうと考へさせられた。尤も設計者には種々の云分もあるだらうが、兎も角も住宅としては餘り好ましくない地割であるといふ外はないのである。

地割が宜しくないのは前記の通りだが、もう一つこの新市街として不體裁なものがある。初めてこの市街を訪ふ者の、最も嫌な感じを惹くものはこの生々しい市街の眞ん中に、白ペンキ塗りの大きな二本の標柱を屹立てゝ、それに『市役所指定店舗』と記してあり、餘り富豊でも立派でもない店舗なるものがヤ、大きな一劃を造つてゐる事である。鶴町には別にチヤンと公設市場なるものがあつて、まづ一と通りの日用品は其處で辨ずる事が出來る筈であるが、市役所では更に何の必要があつて、斯う云ふ第二の公設市場のやうなものを

指定したのであらう。或ひは公設市場にない商品も、この指定店舗には有るのだからといふ理屈もあるだらうが、併し爾んなら何故爾ういふものを公設市場に加へないで、直ぐ近い場所にこんな指定地などを設けてたのか、少しも了解の出來ない事である。

それで斯う云ふ性質の店舗は、無論市役所――大阪市で信用を保障した店舗であらうと思はれるこれを市役所の係吏員達が、自儘勝手に指定したものとは勿論想像されない。斯る大きな標柱を新市街の眞中に立てゝ威張つてゐる位だから、必ず或る適法の下に設置されたのであらうが、さうするとその商店で、賣る賣品の價格に就ては、ヤハリ市でも責任を感じてゐる譯で、何等かソコに監督機關を置いてある事と察知される。併し若し爾うではなくて、大阪市役所でこれを指定して置きながら、其店舗で賣る品が價格に於て何等他の店舗と撰ぶ處がなかつたり、萬に一却つて少しでも不廉であつたりする場合があるとすると、それこそ市の當事者の大なる手落となるのみでなく、市の責任にもなる事である。私が鶴町に於て調べて見た處によると、私の調べ方が匆卒の際であり、亦た粗漏であつたにもよるか何うか分らぬが、この指定店舗に對する市の監督機關と云ふものが特に定めてあるやうにも受取れなかつた。或ひは萬々一定めてあるかも知れぬが、定めてあるにしても、其の活動は殆んど無いも同然らしく觀察されたのみならず、購買者側の評判によるも決して公設市場のやうに廉價でも何んでもなく、寧ろ看板丈けが大きくて其の實際は伴つてゐないやうに云つてゐる。これが事實とすると甚だ怪らぬ譯で、市ではヤハリ責任上これを何んとか處置しないではなるまいと考へられる。

それからモウ一と つ云ふべき事は、斯様な指定店舗と云ふやうなものを、市で認許特置するの可否である。時と場合によつて或ひは爾うする事を可とする事もないとは限るまいが、併し爾う云ふ場合には市又は市の當事者は相當の責任を持つことは無論の事である。而も鶴町に斯う云ふ指定商人が置かれたとなると、市では大阪市がこれから發展してゆく各方面の地點で、他にも此種の保護商店を認許指定しない譯にはゆくまい。少くとも鶴町以外には指定店舗を置かぬといふ理由は立ち難い事になる。爾うなると市は何うするつもりで

あるか、ヤハリ公設市場のやうな監督機關でも置いて認許指定するにしても、その結果は何等かの故障や苦情を生ぜずには濟まない事を豫想されるやうである。縱し爾んな事は萬々ないとしても、斯様な指定店舖などを特置するといふ事は公設市場の二重設置に近いもので、社會施設としては愚なやり方であるといふ外はない。

六

大正橋に歸つて、今度は裏町傳ひに芦原町邊から木津勘助町あたりを今宮にぬける。この邊の穢くろしさや非衛生的な事は、今更云ふまでもないが、空地などでは今でも往々輕業や曲藝、曲馬、犬芝居、猿芝居などの興行をやつてゐる事がある汚ないテントやボロ幕ボロ裂を張つて、高い小屋をかけてドンチャンやつてゐる。すると其處へ集つて來る者は、食ひ物のカスや何かを山のやうに捨てゝゆくのを、小屋の者が小屋の四方へ掃き出して捨てゝ置く。無論市の衛生部などゝ何の聯絡もないのだから、塵芥の運搬夫などはそれを持つてゆく譯はない。警察や衛生委員達も大ていは餘り喧しく云はない。塵芥が日を經るに從つて腐つて惡臭を放つ。群衆はその上へ小便や大便を垂れ流す。小屋を取卷いた板圍ひの中や、小屋の後ろなどは之等の代物でウヂャ〳〵してゐるが、外からは餘り見えない。興行が終つて小屋を取拂つて一座が別の管轄區域へ移つていつた跡で、大ていその土産の凄じいのに舌を卷いて驚くのだが、もウ其時は何うする事も出來ない。市では斯う云ふ移動するものから、衛生費を取つて居ないから態々手を下さない。警察だつて衛生委員だつて、恐らく地主だつて自腹を切つて、それをキレイにする事はしない。結局塵芥や大小便は腐れ放題、黴菌や惡疫の媒介物が自由行動を取つて活動する事に終る。これは興行主が毎日掃除する事に警察で勵行させればいゝのだが、それが實行されてゐない實際をいふと市には到る處に、一定の興行場や定小屋があるのだから、如何に空地だからと云つて斯う云ふガサツな興行物を、無暗に許可する必要はあるまいと思はれる。それは風俗上の取締から云つても、衛生の上から考へてもである。大阪市に於る民衆娯樂の場所は、少い方でもないのだから、空地での此等の不體裁な興行は強いて必要ではないと考へられるやうだ。（完）

個性に即した生活

木村永子夫人の持論と博士のフロックコート外套

‖訪問記‖

M記者

藥學博士木村彦右衛門氏夫人永子さんをお訪ねした時のお話です。お宅は天王寺小宮町の閑靜なお住ひ、御夫婦共に早く洋行なすつて音樂趣味に深く、お宅の階上には大廣間をしつらへて音樂演奏などにも適した建築にしてある程ですが、總べての生活樣式も又た大抵洋風が主になつてゐて、御主人と三人の幼さな令嬢は一切洋裝、夫人だけが「まだ多年の習慣でつひ……」といふ處から和服でゐらつしやいます。從つて室内の設備なども和洋兩樣の建築にはなつてゐますが殆んど洋式の方が大部分、僅に階下の二三室が日本室でした。之は佛間と座敷——座敷は以前御老人の爲めにと、それから親戚等から見ゑる日本式習慣のお客樣のために、といふので拵へられたものださうですが、此頃は二階に在つた大卓やソファーを下ろして來てこの座敷の室に据えられてゐます。で記者はこの日、この洋式日本室の方で心易く奥樣にお目にかゝりました。片方は床の間に違ひ棚、軸や置物など宜しく、その片方は庭に面して硝子戸を引きめぐらした廊下がぐるつと取り巻かれ、庭はやゝ日本趣味濃く柴折戸や庭石や芝生やに取合せよく樣々の樹木が茂つてをりました。以下は夫人との對話です。——記者——

「この頃は方々で生活改善問題や住宅問題が喧しうございますが、それに就て奥樣は何か新しい思ひつきはお有りになりませんでせうか」

夫人『左様でございますね、始んど同じやうな事が繰り返へされてゐるやうですけれど……』

私『こちらのお宅はお建てになりましてから何の位ゐにお成りになりますか？』

夫人『もう八九年にもなるでうか――』

私『如何でございませう、何かそれに就ての御感想は……』

夫人『今になつて斯して住んでみますといろ〳〵不満なところや直したい處が澤山ございますね、矢張り一度は失敗つてみなければ本當の改良は出來難うでございますね。……私共は今度河内の方へ少しばかりの土地を求めましたが、今度建てます時はせめて今少し考へたものに致したいと思つてゐます。』

私『と申しますと何ういふ御工夫に遊ばすでせうか？』

夫人『無論私は洋風に致したいとは思つてをります。それに私はいつも考へます事ですが、日本家屋は申すまでもなく、同じ洋風の建築にしても木造のやうな耐火設備に不適當な家屋は、是非だん〳〵改めて行かなければならないと思ひます。先頃のあの帝國ホテルの火災等は何うでございませう、私達は是非之からの世界では一層もつと〳〵健固な家を建てなければならないでせうと思ひます。――あんな空中から爆彈投下など行はれる時代でございますからね。あれだつても三階以下は人命を傷う事は無いさうでございますが、だからと云つて其時になつて私共は三越の地下室まで走つて行くわけにはゆかないのですものね。……』

と夫人は面白い事を云つて笑ひながら『兎に角、私共でも今度の家は鐵筋コンクリートに致したいと思つてをりますが……』

私『全く結構でございます』

夫人『それから只今の家でいろ〳〵教へられた事もございます。二階の方も後で御覽下されば分りますが、五十疊の二廣間を設計してその中央部の天井に電氣を取りつけましたが、後で階段に面しました方を仕切りました爲めに平均が取れなくなつて電燈がずつと片寄つてしまひした。是等も最初考へて置かなければならなかつたのですけれど

まだ其上、演奏會でも致します時は、一方舞臺面の天井にも電燈の設備が要ります。又左關側の應接室でございますが、最初は餘程窓も大きく二つ取つてをりした、窓の向ふにもかなりの空地がありますにもかゝはらず、後から片寄りに附屬の便所をつけましたのと、窓外の樹が茂りましたのとで餘程室内が暗くなりました。こんな事は本當に出來上つてみなければ氣がつかないものでございますから――。そんな具合で臺所の地下室等も拵へてはをりますが、地質の加減で度々修繕を加へても水が出るのでございます。

又私は西洋で觀て來ました臺所など參考にして宅では食器を洗ひます流しを木製でずつと深い箱のやうに致してゐます。之はその中に湯、或は水をたつぷりに注いで器食を洗ひながら一方の清水で清めましたら、手數を省いて便利なのと、食器などを傷めない積りでございましたが、女中は流しが深いために袖口が濡れてならないさうでございます。……理論の通りにはゆかないものでございますね。」

其處で記者は、今度は所謂日常生活に對する夫人の希望――取分け住居に關する――に就て伺つてみました。即ち、現在の日本、或は西洋住宅で猶「斯う有りたい」といふ事をです。次は夫人のお話の大要でした。

『私は必竟目下の時代では大體洋風の住宅、形式が今の私共の生活には適してゐると思ひます。例へば日本住宅の不便や、設備の冗漫はよく新聞雜誌にも云ひ盡されてゐます。實際快活に、時間的に、澤山の仕事をし、澤山の休養を取ります爲めには、私共の生活樣式を出來る丈けに簡單にするよりありません。それには洋風の家屋の方がいろ〳〵の優れた點を多く見出します。私自身が現在に椅子を用ひ廣い、食卓で家族が食事を取り又寢臺を用ひてゐてさう思ふ事ですが、例へば日本の疊などは年に一回は表を取り替えなければ客間用のもの等は赤くなる等いふ煩はしい心遣ひも洋室の方では要らない事でございます。なほ日本のあの襖樟子などの張り替へになりましたら全く之程無駄の多い煩雜な年中行事もないだなうと思ふ

位ゐです。まして子供の多い家は一層の事ですが私は然うした無駄な「繰り返し」をせぬ工夫、一時的、間に合せ的の努力を無くしたいと存じます。

けれど私は其處に猶、私共の心深く根ざした、「自分の生活」云ひ代えれば個性に即した生活を、それ迄も無くして全然洋風にする事は好みませんその例は私共の日常にも澤山に見る事が出來やうかと思はれます。私共は日本人として永い年限の傳統を享けて來てをりますが。私達には、私達特有の個性——趣味——習慣——を有つて居ります。それを出來る丈け生かし育てゝ然うして新しい生活の方式に當てればいゝでせう。即ち、必ずしも西洋風をそのまゝに眞似るのではない、獨自獨特のものを創造しなければならないと思ふのでございます。

例へば座ることを椅子に改めてもいゝ事です。然うして私達はその椅子の樣式や工夫や、更にカーテンの模樣の選擇や、其處に私共の特有の性格を働かせたいと思ふのでございます。然うしたもので、日本人は又日本人としてのいゝものを澤山に有つてゐるでせうと思ひます。

私は日本室を面白く洋風にする事も決して可笑しい事はないと思ひます。それは色彩の調和を日本人的に、日本のものを使つてよくしましたら、或は又欄間といふやうなものを無くして、又在來の廊下といふものをもつと廣くして寧ろ實用的にヴエランダのやうなものにしたらいゝだらうと思ひます。布地等も日本には中々いゝ染物も織物もあるのですから、カーテンや卓掛けに澤山使つては如何と思ひます」云々。

それから記者はお宅の室々を見せて頂きました丁度其處へ博士が外よりお歸りになる、博士は日本の家屋に暖房裝置のない事を痛論して、遂に博士自身が工夫した「フロックコート外套」といふものを見せて頂きました。それは暖房裝置の完全したお宅に住ひつけた博士が、冬に外出して、寒い日本敷座の宴會場に行つたらきつと風邪を引いてしまふ。それで防寒具を脫がないでいゝやうに外套に拵へたフロックコートといふ重寶なもので「こんなものを着なければならないといふのは、

丁度今の時代に住む吾々の牲犧です」と博士は笑はれる。

見廻つた室々では、階上の五十疊敷といふ大廣間、音樂室兼平常は御主人の書齋といふことになつてゐる。或に又床が全部マハガモニーの組木細工で美しく滑つてゐるから、舞踏會等も催される。音樂演奏の場合には、正面の一段高くした床は二重張りにして中が空洞だから音階の響きをよくするやうになつてゐるのです。

そしてこの室の隣りが十二疊、壁の赤色かゝつた華やかな色彩の緞子張りと、綠をあしらつた天井と、黒光りするピアノとがいゝ調和を見せて美しい。そしてこの二つの室の合せ目に、丸い、高い、裝飾的な二つの柱が光つてゐますが、之は嵌め込みの扉を開くと書棚でした。その突端（上部）に、大理石像を置いて裝飾したいとは博士のお望みです。

一寸氣のつかぬ事で參考になつたのは寢室の片方の壁に嵌め込みにした洋服箪笥で、その扉が冬期は室の温度のために木が乾燥して合せた處の割れ目が出來る事、「之等は考へなければなりませんん」とは奥樣のお話です。

更に階下に降りて、食堂は椅子式、又湯殿の天井を何度も〳〵造り變へて、「やつと雫の落ちぬやうにしたのが之です」と仰有るのは、白ペンキ塗りの板天井が斜線になつて上部に空氣拔が拵へてありました。臺所の女中さんや爺やさんの食事も矢張り椅子式、戸棚と揚げ板と、料理臺と、格好よく片づいてゐます。

尚博士のお話に依ると、暖房裝置は病院や住宅には湯を通すこと、會社、工場、ホテル等は蒸氣式でなければならないが、日本ではまだ混同されてゐるのが多いとの事でした。それは、前者は室内が暖まる迄には時間を要するが、一旦温まると容易に冷えぬこと、だから永續的であること、けれども後者はそれと反對で、一時的、時間的であるにはいゝが、音響を發する、それが病院とか家庭には適當でないとの事でした。

最後に、記者がおいとまをする時に、玄關に立たれた夫人は、「もう今後の生活には、斯うした廣い、無汰な場所を取つた玄關は要らない事ですね此處でも或程度迄の簡單な應接室に代へる事が出來ませうと思ひますが」と仰有つてゐました。

時代に伴ひたい
私の生活方針

實業家竹原莊一郎氏夫人　竹原みごり

既に十數年の前に東京目白の學舍で新しい進んだ教育の下に學業を卒へたみごり夫人が、直ぐそのまゝに大阪の船場といふところ、古い習慣と頑くな、因襲と、重い格式に、嚴重な鐵鎖で以つて圍つた大きな暗い家に入つたその時の苦勞から、現在の生活思想まで辿つた夫人の感想です。夫人は今一人の令息の母として、在來の古い曲雅な船場趣味と、同時に可なり執着なその束縛とから、巧みに自由と調和を求めながら新しい空氣の中に動いてゐる方です。大阪の社交界では古く押しも押されもせぬ堅實な位置を保つ人、婦人十日會と櫻楓會の地味な柱——と云つたふうに見えます。（M）

◇私は先日上京した際に一寸の時間をぬすんで博覽會へ參りました。ほんの三時間ばかり、その間眞先へ例の文化村を覗いてみました。新しい試みになつた建物——面白い工夫の住宅も見ました。その中に賣價一千六百圓といふ小さな如何にも氣の利いた簡單な家がありました。それは、たつた一個の室で寢室、食堂、書齋、應接室を兼ねやうといふ仕方、それに僅かの臺所と便所が附いてゐて、それより今少し大きい家が三千幾何といふでした。けれども私はもう中へ入つてもみませんでした。

◇私はいつもさう考へます。私達のこの同じ現代に住む澤山の人間が、深く考へましたら、それはみんな生活狀態を異にした千差萬別のものなんです。それは各個人の境遇から、違つた趣味から、

個性から、無論様々の形式、過程を持つのが當然でなければなりません。そんな點から私は、近頃喧しく傳へられる文化生活といふものも斟酌しなければならないのだと思ひます。

◇例へば、この頃はよく住宅の問題を伺ひます。新しい文明的な生活、それは無駄を省いた生活、簡單な形式、時間の活用、小さな家——といふ事に皆一致します。殆んど誰方の仰有る事も同じやうです。無論理想としては異議がありません。けれども猶私はそれに各人の立場に依つて區別されなければならないと思ひます。必ずしも只便利簡單をのみ總べての人に強ふる事は——尠くとも一樣一列に論じる事は、出來ない事だと思ひます。

◇私は只今もまだ古い船場の執拗な形式に縛られる事は澤山にございます。それでゐてなほ片方では、新しい奥樣方、若い元氣な思想生活の方々に交つてゐますが、殊にその事は痛切に感じてなりしません。古い無駄な形式は脫したい、省きたいさう思ひながら感じながら、それが出來ないといふ事は必ずしも私の努力、決斷が足りないとのみは云へないやうな氣がします。脫し得ない處に、省き得ない處に、私共の社會生活、共同の交渉はあるのではありますまいか。

◇今の社會狀態は、新聞雜誌に新しく論じられるやうな事の、足下にも追ひつき得ない過去の遺物がまだ澤山に殘つてゐるのです。寧ろそれが多く大部分であるのが實際の狀態であるのです。その中に混つて、然うして出來る丈の工夫と努力とを費してゆくのが、目下の私達の置かれてゐる立場だと思ひますが、しかし致しかたのない過度期の混沌たる新舊思想の、改革期に生きる私共の已むを得ない犧牲だとも云へませうか。さう思つてゐる私は、只徒らに新しい説のみの、實際生活に收つて誠に緣遠い事を痛感しますが、要は只、各個人の立場に依つて區別さるべきこと、文化生活の根本の意義も必竟各人の環境と四圍の事情から夫れ〳〵に工夫し考案された衣食住でなければならないと考へるのでございます。ですから私は何事もあらゆる人々の體驗と實際に基きたいと考へます。甲は甲の工夫、乙は乙の説であつてかまひま

せん。私共は只其處に常に怠らない研究と努力さへあれば、私共の生活も、社會も無論改善されてゆくと信じますから。要するに私共の生活はその時代の社會狀態に支配される事を逭れる事は出來ないのです。

◇私の以上のやうな考へは自然私の家の生活形式を支配してゐるのでございました。遠からず都市計畫の實施される折には、宅の半分も淀屋橋筋の二十四間道路に加へられる事になつてゐますが、その折には又新しい家の好みも改築の必要も起きてまゐります。けれども私は宅の事情から郊外に住宅を選ぶ事も出來ません。周圍との折衝を思ひますと、純洋風の建物も不調和を來します。又便利な簡單な條件を必要とのみして小さな家を建てる事情にもまゐりません。また小さな子供もゐなければ、子供室遊戲室といふ工夫にも只今は必要のない事になつてゐます。

◇そんなですから矢張り私は私の現在から出發して其處に出來る限りの調節を計るより致し方がないのですが、いづれ又子供の時代にもなれば、無論私もその時の狀態に、順應してゆきたいと考へてゐます。

◇然うした理想からは、私は寢室と應接室と食堂とを洋風にしたいと考へます。和洋折衷といふ事も種々問題にされるやうですが、私は日本人として矢張り或點までは日本古來の思想趣味に生きたいものです。そんな點から和洋折衷といふ事は、——彼の長所を取り、我れの長所を更に育てゝ其處に新しい現在の自分を創造するといふ事は、決して無理でも不可能でも無いと信じます。否、寧ろ、私はそれを私の喜びとしてをります。恬淡な古雅な、深い思索に富んだ趣味と洗練は、日本傳來の建築にも書畫にも澤山見出せるではありませんか。一日の勞働を了へて、夏の夕べなどは庭石にしつとりと打水を含ませた涼しい風情を簾越しに眺めやる落ちついた改まつた氣持ちは、決して西洋住宅の刺激強い感想からは受け取れません。

◇寧ろ住宅の外の、別莊などいふものは、それこそ最も簡素な、清潔な、手數のかゝらないバンガロー式の小さなものだつたら理想的であらうと思

ひます。それは平常の自分を離れて、ゆつくりと社會との交渉も斷つて、一日か數日、氣持ちのいゝ生活をする爲めには、在來の贅澤なだゝびろい家屋は要らない事と思ひます。留守番などゝいふ面倒な又心配の要る者の代りに、平常は入口一つを閉ざして置けばいゝやうな、道具等も極く簡單なもので盜られる杞憂もないものに致したらと考へます。

◇私は私共主婦にとつて荷厄介なものゝ一つである例年の虫干の機會に、鳴居から鴨居に釘を打つたり家の造作を損じたりする憂ひのないやうにと一種の棹を考へました。それは二間の長さのものを嵌め込みにして平常は一間のものに疊んで置きます。それを虫干の時には片方は二階等の欄干から、片方は椅子等を乘せ臺にして午前と午後に簞笥の二三段づゝを、數日に至つて致しますが、割合に氣輕に始末出來るやうです。

◇今一つは、現在の先づ中流階級の家庭には誂子風呂（五右衛門風呂）をお勸めしたく思ひます。それはかなり不體裁のやうにも思へますが、便利と經濟的である上から、女中の手數を省いてやる爲めにも大變にいゝと思ひます。釜底から火を焚くために、僅かに二十分、夏期ならば水を朝から吸み入れて置きますと五分餘でお湯が沸きますし木製の風呂のやうに毎日磨いて乾す心配がないのですから、非常に掃除は清潔に出來ます、又水落しの栓を私はスヰツチを取りつけて外に方に致しましたが、之もいゝやうです。先般母校の井上先生が見えて大變にいゝといふ處から、現在は女子大學内に出來たアパートメントの風呂にも之を拵へになつたのでした。宅では只今は風呂には石炭と火庭用としては瓦斯と炭、薪を使つてをりますが、之からは家庭の燃料問題が喧しくなりませういづれは電氣と瓦斯に賴むのが當然です。けれどもそれには、もつと安値な電熱の普及も、また婦人の科學的知識もそれに伴はなければならないことでございます。

大阪建築だより（一）

翠煙生

先日、東京にゐる親族の者が大阪へ遣つて來て一日、難波橋々畔から、北濱一帶を眺めつゝ、奈何にも詠嘆的な聲を出して、『オヽ！是は亦驚くべき變り樣だ、アノ宏壯な建物は？……成る程「北濱ビルデイング」……アノ先きは？……「野村ビルデング」……アノ上流天神橋際はのは？……ハヽ「大林組」本店、……三越支店の建物から、其處等一帶は、何となく紐育の或一角に似てゐるのが面白いですネ、』と。

奈何にも、大阪は、建物の案排が紐育式に發達しつゝあるのは、少しく注意する者の氣付く現象である。蓋し、都市を築くものは、主として、都市の建築物其ものに徴象される。大阪都市が外觀の雄大さに於て、紐育に似通ふて來るのは、文化生活と經濟的膨脹の現はれだと觀て大差はあるまい。

仍で、記者は、大阪市に於ける建築物の發達から觀て、讀者と共に、それより何ものをかの暗示を獲たい、と思ふ。先づ、大阪市が、現に住宅の缺乏を愬へてゐる事は、今此處に數字的の說明を持ち出すまでもなく明確な事實である　既に客年に於て、大阪市當局者は、住宅貳萬餘戸の缺乏、と聲明してゐる事實に於て、思ひ半に過ぐるものがあらう。

然るに、大阪府當局者の云ふ處に據れば、大阪市に於ける建築物——家屋——は、大正八年以來年々一萬戸許りの增加を來してゐるに拘らず、斯く萬を以て算する程な住宅缺乏を唱ふるのは、件の建物が主として事務的建築物たる事を語るものである。

年々一萬餘戸の增加と共に、各種建築物の改築されるものも相當多數に達してゐるが、兎も角最

近に於ける之等の統計は、其新、改築されたもの實に拾壹萬九千百四拾五地坪に達し、之を延坪とすれば、拾八萬八千貳百貳拾八坪、といふ相當膨大なものと成つてゐる。

けれども、前記の如く、北濱一帶の蕞爾たる地域が、奈何に紐育の卵子だと云つても、大阪都市全體よりせば、我大阪は、まだ〳〵舊文化の氣配が凡てのものに動いてゐるように、續々頻出する件の建築物——而も大建築物も少なからぬ現狀としても、之を全市の地積からせば、今度は、逆に驚く樣な僅に百分の一、五五、即ち、全地積七百六拾六萬五千坪の一歩五厘餘にしか當らない。

處で、更らに面白い現象は、大阪市は日本の大工業都市と稱へられ、そして、物貨集散の大商業地たる稱も擅にしてゐる癖に、亦更らにそれ、大阪都市今の實質が、最早「住居地」でなく、事務的であるに拘はらず、件の統計は、工業關係の建築物の僅に百分の二十七、商業關係のものも殆むど之に伯仲して、百分の二十三に過ぎない事實を示せるは、我工、商業都市に對する皮肉である。

それよりも尙ほ一層皮肉に見ゆるのは、丁度紐育がアノ發達を遂ぐるに隨つて、都市内に住居する者の誰もが郊外へ引越し、紐育市は主もに事務的建築物のみとなつたように、大阪都市は、少くとも居住地たる事が漸次廢される傾向を示してゐる筈だのに、統計の示す處によれば、件の新、改築の大部分即ち百分の四十七は依然住宅建築だ、といふに至つては、小紐育市を以て詠嘆する者の聊か面喰ふべき事實である。

斯の事實は、一體何を語るのであらうか。記者は、それに種々な原因を想像し得るのだが、先づ何よりも明確に考へ得る事は、小紐育市たる大阪都市は、未だ、家内工業と、小商業の相當に殘骸的な勢力を有つてゐるに由ると考へられる。

即ち、工場と住居、商店と住宅、まだ斯麼時代に在るのが、現在の大阪都市なのである。大阪府の當局者は云つてゐる、ちょつと目貫な場所に立ては、奈何にも大阪都市の建築物はどし〳〵改築又は新築されて、驚くべき進化を遂げてゐるようだが、實際は、宏壯な建築とか、幾階を重ぬる洋

舘とかいふような建築物は、驚く勿れ僅に百分の七にしか當らない、と。

併し、黎明を告ぐる曙光は、目貫な街から起つてゐる。即ち、大阪都市が事實紐育市型に進化しつゝある事は、斯の僅かながらも、各所に於ける建築物の改善によつて充分斯の氣配いを見受けられる。建築物によつて——隨つては其各種な影響的因緣によつて、現在の大阪都市を改善するものは、實に建築家に握られある一本のペンシルから出るのだ、蓋し、偉大なりと謂はざるを得ない。

序に云つて置くが、それ等建築物の構造が、木造を以て第一位を示してゐるのは、左なきだに防火的建築物を要求されつゝある時代として、聊か勝手が違ふような氣持がする。次いで、鐵骨又は鐵筋コンクリートを比較的殷々用ひられるのは、奈何にも種々な理由に於て進歩的である。隨つて煉瓦構造と石造とが最下位に在りとは、蓋し、當然な現象であらう。

花鳥も昨日と

過ぎて

初鰹



會合

○理事會

△日　時　四月二十五日午後五時三十分ー六時卅分
△會　場　本協會々議室
△出席者　片岡、舟橋、小笠原、吉木、西谷(書記)山田(書記)
△議　事　一、會員銓衡一、請負規程聯合調査會より基本金寄附方の件に付協議す

○博覽會幹事會

△日　時　四月二十五日午後六時卅分ー八時
△會　場　本協會々議室
△出席者　片岡、吉木、舟橋、波江、小笠原、大谷(書記)山田(書記)
△議　事　一、水道計畫報酬の件、アーチ寄附申込に關する件其他種々協議す

○財務委員會

△日　時　四月二十五日午後五時卅分ー九時卅分
△會　場　大江ビルヂング第九號室
△出席者　井上、細原、山脇、谷口、谷、中川、久保田、山本、舟橋、小林、菅谷、有山、熊取谷、瀨戸西谷(書記)清川(書記)
△記　事　一、寄附申込者氏名表ヲ出席各委員に配付し寄附勸誘に付種々協議ありたり

○理事會

△日　時　五月六日午後四時ー四時卅分
△會　場　本協會會議室
△出席者　片岡、内藤、中西、野呂、小笠原、吉木、瀨戸、西谷(書記)
△議　事　一、會員銓衡一、會員一般に對し博覽會寄附に關する件其他に付協議す

○博覽會幹事會

△日　時　五月六日午後四時三十分ー五時三十分
△會　場　本協會々議室
△出席者　片岡、吉木、瀨戸、小笠原、波江、大谷(書記)
△議　事　一、ポスターの件及活動寫眞開催の件協會建築實物住宅の件其他種々協議あり。



日本建築協會々員永田善次郎氏、大正十一年四月六日午後八時逝く。年齒漸く自立に滿ち、前途頗る春秋に富みて、我建築界に多望なる將來を有するの氏、今や地上に永訣を告げらる、寔に惜悼の至りに禁へざるなり。此處に、氏の小照と概歷を具し、謹むで弔意を表す。

概歷

明治二十五年五月一日　大阪府東成郡鶴橋町永田熊次郎氏ノ二男ニ生ル。大正三年三月名古屋高等工業學校建築科卒業。同年四月陸軍技手ニ任ゼラレ大阪砲兵工廠技術課ニ奉職。同年十二月一年志願兵トシテ高槻工兵第四大隊ニ入隊。大正四年十二月滿期除隊。翌五年一月大阪砲兵工廠技術課ニ復職。奉職中日獨戰役ノ功ニ依リ勳八等ニ叙セラレ瑞寶章及金一封ヲ賜ハル。大正九年二月家業益々發展擴張ノタメ官ヲ辭シ嚴父ヲ助ケ諸般ノ指揮ヲナシツヽ、大正十年八月以來病氣靜養中ノ所終ニ逝ク。

○博覽會招待會

△日　時　五月六日午後五時三十分―八時三十分

△會　場　大江ビルヂング大集會室

△出席者

（招待者）

島田殿（島田硝子製作所）
豊島殿（品川白煉瓦株式會社大阪支店）
櫛田殿（淡陶株式會社大阪支店）
山本殿（山本窯業商店）
清水殿（清水製作所大阪支店）
清水猛殿
鵜谷殿（旭家具裝飾株式會社）
木内殿（宇野澤組ステインド硝子製作所）
福永殿（共同製材製作所）
畑中殿（請負業）
大野木殿（裝飾）
駒井殿（金物商）
鈴木殿（建築金物商會）
鴻池殿（鴻池組）
橋本殿（橋本組）
錢高殿（錢高組）
池田殿（池田組）
伊藤殿（安藤組大阪出張所）
細野殿（細野組）
内海殿（内海組）
志保井殿（高田商會大阪支店）
佐村木殿
前島殿（前島電機商會）
高田殿（日本建築紙工株式會社大阪出張所）
田中殿（田中タイリング商會）
松本殿（松本組）
作山殿（作山鐵工所）
吉田殿（吉田商店）
石川殿（尾張屋商店）
藤本殿（龜井商店）
奥村殿（内外木工所）
西村殿（あめりか屋大阪出張所）
久保田殿
豊田殿
大澤殿（株式會社）
岡本殿（岡本工務店）
小川殿
若松殿（原安商會大阪支店）
小田殿（三越吳服店大阪支店）

（財務委員及理事）

片岡、細原、德政、大林、辰巳、竹中谷口、谷、中川、久保田、熊取谷、山本、松尾、森下、須賀、有山、瀨戸、吉木、小笠原、内藤、野呂、中西、波江、西谷（書記）山田（書記）

○實物住宅敷地決定會

△日　時　五月十一日午後一時―三時

△會　場　本協會々議室

△出席者　片岡代、大林、竹中代、宗代、あめりか屋代、野村代、横河代、葛野、田村代、鴻池代、清水組代、錢高、橋本代、幹事長葛野、常務幹事、波江、小笠原、西谷（書記）大谷（書記）

△記　事

一、實物住宅出品に付敷地の割當に關し抽籤を行ひ決定す

○第五部（一般建築材料及器具類）出品委員會

△日　時　五月十二日午後六時―八時十分

△會　場　本協會々議室

△出席者　宗、吉木、小笠原、有山、谷、熊取谷、辰巳、野澤、松尾、西谷（書記）大谷（書記）

△記　事

一、住宅改造博覽會出品勸誘に關し勸誘方法等を協定せり

○例　會

△日　時　五月十七日午後六時—八時三十分
△會　場　大江ビルヂング大集會室
△出席者　池村、佐藤、葛野、澁谷、大林、宮本、中川、今林、小寺、谷口、保田、久保田、小西、田中、大林義、熊取谷、中川、角尾、竹内、鹿村、横濱、内藤、瀬戸、小笠原、中西、西谷（書記）清川（書記）
△記事　一、横濱理事長開會を宣し直に新入會員及び現在會員數等會務報告あり
一、葛野幹事長より博覽會準備經過其他報告ありて例會終了
一、横濱理事長講演開始の旨を述べ大林賢四郎氏登壇渡米視察談として木材伐採より建具類製作に至る迄長尺の活動寫眞を利用して長時間の講演ありたり

○理　事　會

△日　時　五月二十日午後五時—六時
△會　場　本協會々議室
△出席者　瀬戸、中西、竹腰、小笠原、吉木、西谷（書記）
△議　事　一、會員銓衡　一、雜誌の廣告料に關し協議する所ありたり

○博覽會幹事會

△日　時　五月二十日午後六時—八時卅分
△會　場　本協會々議室
△出席者　瀬戸、波江、吉木、小笠原、西谷（書記）大谷（書記）
△議　事　一、協會出品實物住宅構造に關する件、二、賣店建設の件、三會場内外の廣告に關する件、四ポスター印刷の件、五、個人の圖案出品科、學校等の出品料の件其他雜件協定せり

會　務

○贊助員死亡

（五月五日）名譽贊助員莊田平五郎氏逝去の報あり哀悼の至りに堪へず本會より吊狀を送る
（五月廿三日）普通贊助員梅原格三氏逝去の通知に接し哀悼の至りに堪へず本會より吊狀發送せり

○新入會員

（會員）佐藤平輔君、小山源次郎君、前内文二郎君、荒木貞幹君
（地方會員）福島祿壽君
（特別贊助員）角尾篤彦君
（普通贊助員）若林俊一君、松村喜之助君、南龜吉君

○住所移轉

菅源之助君、大阪府西成郡今宮町西四條三丁目五一八
佐藤四郎君、名古屋市東區東芳野町一ノ七五
松井英一君、大阪市南區天王寺大道三丁目四二二六
森本須一君、岡山縣倉敷町字榮町四九九
池上榮次郎君、大阪府下東成郡榎本村字放出一七三ノ二
小西政二君、東京市外大久保百人町三九〇
桑名泉太郎君、福井市城内丸の内福井縣廳新營工事所增山出張所内
小倉強君、仙臺市袋町十九
山田浩君、青島大阪町一大倉土木組出張所内

鹿村萬吉君、市內北區中之島四丁目ノ七大阪住宅經營株式會社內

村上徹一君、市內西區築港七條通一丁目ノ四

村上秀二君、市內西區築港七條通一丁目ノ四

多田七五三一君、大阪府西成郡海老江一〇一九ノ二

池福勇吉君、京都市下京區間之町高辻下ル稻荷町五三一土木建築みやこ事務所內

荒木孝平君、支那漢口橫濱正金銀行內

松本儀八君、大阪府豐能郡麻田村山ノ庄

森觀之助君、千葉縣松戶町高等園藝學校內

佐伯德吉君、東京市外小松川町字西小松川四四一〇

服部逸治君、岡山市岡山醫科大學構內文部省建築課出張所內

○奇贈圖書

生活と住宅一號　生活と住宅社

住宅五號　住宅改良會

建築雜誌三號　建築學會

材木新聞每號　同社

金屬工業新聞每號　同社

經濟資料四號　東亞經濟調查會

都市公論五號　都市研究會

建築世界五號　同社

通商彙報四號　大阪府立商品陳列所

工業評論五號　工業評論社

帝國鐵道協會々報四號　同協會

建築畫報四號　同社

電氣評論五號　同社

通俗衛生四號　大阪府衛生會

工業之大日本四號　工業之日本社

商工時報二號　大阪市役所商工課

家のしるべ四號　家のしるべ社

國民經濟五號　寶文館

土木建築五號　日本實業興信新報

商業及經濟研究　大阪高等商業學校

繪畫通信展覽會時報　帝國美術協會

電氣學會雜誌四號　同學會

工業の友四號　工手學校

滿洲建築協會雜誌四號　同協會

新住宅四號　洪洋社

建築業協會々報二號　同協會

建築の普及四號　帝國工業教育會

電力統一問題　大阪工業會

庭園　庭園協會設計部



役員及職員

副會頭片岡安
理事　小笠原鈔
理事　横濱勉（理事長）
理事　吉木久吉
理事　竹腰健三（編輯）
理事　中西其作（編輯）
理事　内藤太郎（主記）
理事　野呂長四郎（編輯）
理事　松本禹象
理事　舟橋喜一
理事瀬戸文吾（主計）
書記
（編輯主任）江村郊郵
（庶務）西谷節
（庶務）清川伊佐

會員	二三四
名譽賛助員	六八
特別賛助員	二二
合計（五月二十日現在）	八二九
會員（地方）	七九
終身賛助員	五二
普通賛助員	三七四

臨時博覽會部（住宅改造博覽會）
會長　片岡安
幹事長　葛野壯一郎
常務幹事　波江悌夫
常務幹事　小笠原鈔
幹事　吉木久吉
幹事　松本禹象
幹事　舟橋喜一
幹事　瀬戸文吾
書記　西谷節

本誌及廣告料定價表

本誌	册數	定價	郵稅
	一册	金五拾錢	貳錢
	十二册	六圓	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓

特別頁モ料金一定シアリ御照會アリ度シ

大正十一年五月三十一日印刷
大正十一年六月一日發行（毎月壹回一日發行）

大阪市外中津町下三番一九八番地ノ一
發行兼編輯人　江村恒一
發行兼印刷人
大阪市東區内淡路町一丁目卅一番地
印刷所　大阪活版所
大阪市北區絹笠町九
大江ビルヂング三十七號室
發行所　日本建築協會
電話北四一九一番
振替口座六阪三九九七五
大阪市西區泉町堀羽子板橋北
特約販賣店　柳々堂書店
電話（土佐堀二四四〇番）
振替口座二〇八四番

●第五集　第六号　掲載広告一覧（掲載順）

川北電気企業社
日本輸送機製作所
浅海商店
出浦建築事務所
大阪建築所
新海建築工務所
小笠原建築事務所
渡辺建築事務所
葛野建築事務所
片岡建築事務所
片岡松井建築事務所
横河工務所
竹内建築事務所
宗建築事務所
国枝工務所
柳下建築事務所
真水工務所

真水三橋建築事務所
舟橋建築事務所
遠藤於菟
木子建築事務所
設楽建築工務所
茂、野村建築事務所
西原衛生工業所大阪支店
池田勘蔵
日本土木大阪出張所
大阪橋本組
大林組
竹中工務店
長瀬組
中川辰蔵
佐伯工務所
野村亥之助
久保田組

熊取谷熊次郎
松村組
小西組
藤木正一
鴻池組
駒井喜兵衛
安藤組大阪出張所
太成社
清水組大阪支店
銭高組
山縣組
清水工務店
山崎建築事務所
関西ステンドグラス製作場
久原鉱業大阪出張所
山田大理石製作所
矢橋商店

吉田鹿之助本店
高田商会
須賀商会
内外土木建築材料
栄進社
松尾和助本店
山本窯業商店
萩原煖房工務所
新田ベニヤ製造所
南満鉱業
砂崎
山本コンベス商会
大野式特許品営業所
東京建鉄
河村青写真調製所
宇野沢組スティンド硝子製作所
コルク工業
鈴木製作所
大阪煖房商会

大阪電気商会
インペルメアビリット
日本木材工芸
都市工業
大理石工業
川崎工場
北木島石材大阪出張所
ホーン
城口汚水処理研究所
吉田鉄工所
田中タイリング商会
淡陶
実野商会
日本トラスコン鋼材
大阪耐火リノリウム工業
住友製銅販売店
住友東京販売店
共同建材製作所
日本工剤

ヒーリング商会
大阪窯業
横河橋梁製作所
田中源太郎商店
極東硝子工業